

平成 29 年度（2017 年度）実施

県民意識調査報告書

【概要版】

調査の概要

1. 目的

県民の日常生活に関する満足度、当面する主要な課題に対する意向、行政に対する期待・要望など、時代とともに変化する県民意識の動向を的確に把握し、「ダイナミックやまなし総合計画」を推進する上での参考資料とする。

2. 調査内容と項目

項目	調査内容	質問項目数	
県民生活の満足度	県民生活を8領域（健康、安全、居住環境、労働、所得・消費、教育・文化、余暇、福祉・連帯）に区分し、各領域および生活全般の満足度を把握する。（問1）	44	
主要な事項についての 県民の選好度	「輝き あんしん プラチナ社会」実現の前提となる県民の意識	定住意識（問2） 本県のよいところ（問3） 本県のよくないところ（問4） 「豊かさ」のイメージ（問5）	4
	行政の施策についての要望	行政の施策についての要望（問6）	1
	「ダイナミックやまなし総合計画」を推進する上での主要な課題や施策についての関心、要望	地域産業の振興（問7） 農業の振興（問8） 環境の保全（問9～問10） 観光の振興（問11） 国際交流（問12） 交通政策（問13） 地域福祉（問14） 保健医療（問15） 子育て支援（問16） 防災・災害対策（問17） 安全・快適な社会づくり（問18） 学校教育（問19） 文化・スポーツ・生涯学習（問20） 移住・定住の促進（問21）	15
	公共施設整備についての要望	公共施設整備についての要望（問22）	1
	期待する山梨県の将来像	期待する山梨県の将来像（問23）	1
回答者の属性 (フェイスシート)	性別、年齢、職業、居住年数、県外居住経験	5	

3. 調査の仕様

仕様の種別	仕 様
調査区域	山梨県全域
母集団	18歳以上の県民
標本数	2,000人（平成27年国勢調査データを基本とする）
抽出方法	層化二段無作為抽出法 （全県域を4地区に分割し、200地点を各地区に母集団の大きさに応じて配分し、住民基本台帳から抽出する）
調査期間	平成29年7月29日～8月27日
調査方法	調査員による留置記入依頼法・オンライン調査 併用
調査機関	設計・分析 公益財団法人山梨総合研究所

4. 地域区分

地域名		構成する市町村名（数）
中北	峡中	甲府市、南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町（4市1町）
	峡北	韮崎市、北杜市（2市）
峡東		山梨市、笛吹市、甲州市（3市）
峡南		市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町（5町）
富士・東部		富士吉田市、都留市、大月市、上野原市、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、小菅村、丹波山村（4市2町6村）

（注）※各地域県民センターの管轄地域を基本に、過去との比較分析を考慮し区分している。

5. 回収状況（地域別）

地域名		地点数	標本数	回収数	回収率 （%）	前回回収率 （%）
中北	峡中	90	900	729	81.0	85.1
	峡北	18	180	143	79.4	86.1
峡東		32	320	274	85.6	88.1
峡南		14	140	116	82.9	76.7
富士・東部		46	460	392	85.2	88.0
総合計		200	2,000	1,654	82.7	85.7

6. 回答者の属性

属性区分	回答者数 (人)	割合 (%)
総数	1,654	100.0
【性別】		
男性	856	51.8
女性	798	48.2
【年齢階層別】		
18～19歳	40	2.4
20～29歳	202	12.2
30～39歳	222	13.4
40～49歳	291	17.6
50～59歳	293	17.7
60～69歳	338	20.4
70歳以上	267	16.1
無回答	1	0.1
【職業別】		
農林水産業	53	3.2
商工・サービス業	199	12.0
自由業	50	3.0
会社・商店・工場勤務	505	30.5
官公庁・公共企業体勤務	128	7.7
学生	70	4.2
主婦・主夫(パート)	194	11.7
主婦・主夫(専業)	223	13.5
その他	219	13.2
無回答	13	0.8

属性区分	回答者数 (人)	割合 (%)
【居住年数別】		
1年未満	4	0.2
1～5年未満	24	1.5
5～10年未満	45	2.7
10～20年未満	168	10.2
20年以上	1,409	85.2
無回答	4	0.2
【県外居住経験】		
ある	875	52.9
ない	773	46.7
無回答	6	0.4
【市郡別】		
市部	1,388	83.9
郡部	266	16.1
【地域別】		
峡中	729	44.1
峡北	143	8.6
峡東	274	16.6
峡南	116	7.0
富士・東部	392	23.7

年齢階層	回答者数 (割合)	うち男性	うち女性
18～19歳	40 (2.4%)	17 (1.0%)	23 (1.4%)
20～29歳	202 (12.2%)	104 (6.3%)	98 (5.9%)
30～39歳	222 (13.4%)	111 (6.7%)	111 (6.7%)
40～49歳	291 (17.6%)	148 (8.9%)	143 (8.6%)
50～59歳	293 (17.7%)	160 (9.7%)	133 (8.0%)
60～69歳	338 (20.4%)	188 (11.4%)	150 (9.1%)
70歳以上	267 (16.1%)	127 (7.7%)	140 (8.5%)
無回答	1 (0.1%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)
総数	1,654 (100.0%)	856 (51.8%)	798 (48.2%)

調査結果の分析

第1章 県民生活の満足度

1 満足度に関する回答の概要

県民が居住環境や日々の暮らしの中でどの程度満足しているかを見るため、図表1-1に掲げる各項目について、「満足」、「どちらかといえば満足」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満」、「不満」の5段階評価で回答を求めた。過去3回の調査結果との比較と併せ、今回の調査結果をまとめると、図表1-2のとおりである。

図表 1-1 満足度質問項目一覧

領域	項目（略称名）	質問内容
健康	1 日常医療	日ごろ病気になったときにかかる病院や医院の医療について
	2 救急医療	休日や夜間などの救急医療について
	3 検診・相談	市役所、町村役場が行う生活習慣病検診や医療相談について
	4 健康全般	あなたの健康を守るための環境全般について
安全	5 交通安全	毎日の生活の中での交通の安全性について
	6 防犯・防火	あなたがお住まいの地域での防犯体制や防火活動について
	7 自然災害	地震や大雨による浸水・がけくずれなど自然災害からの安全性について
	8 安全全般	あなたの生活全般の安全性について
居住環境	9 自然環境	山や川などの自然環境について
	10 大気汚染等	大気汚染や水質汚濁、騒音、振動、悪臭などの状況について
	11 公園広場等	公園、広場、遊び場などについて
	12 ごみ・生活排水	あなたの地域でのごみや生活排水の処理について
	13 住宅	現在お住まいの住宅の敷地や建物の広さについて
	14 公共交通機関	バス、鉄道など公共交通の利便性について
	15 道路	あなたの地域の道路の整備状況について
	16 買い物	日常の買い物の利便性について
	17 居住環境全般	あなたの居住環境全般について
労働	18 就職の機会	自分の望む仕事に就職、転職する機会や職業紹介について
	19 労働条件	労働時間や休日、福利厚生、仕事の安全衛生などについて
	20 仕事のやりがい	今の仕事のやりがいについて
	21 労働全般	あなたの今のお仕事全般について
所得・消費	22 所得	あなたのご家庭の所得について
	23 資産	あなたのご家庭の資産（預貯金、株式、不動産など）について
	24 消費	商品（サービス）の種類や豊富さについて
	25 物価	最近の物価について
	26 所得・消費全般	あなたのご家庭の暮らしむき全般について
	教育・文化	27 幼稚園・保育所
28 小中高の教育		小・中学校、高等学校などの教育について
29 高等教育の機会		県内で大学、短期大学、専門学校などの教育を受ける機会について
30 家庭教育		しつけなどの各家庭の教育について
31 生涯学習		趣味の会、教養講座などの文化活動に参加したり、すぐれた芸術文化に接したりする機会について
32 文化施設		図書館、文化ホール、美術館、博物館などの施設について
33 文化財・伝統継承		史跡、文化財、郷土芸能、まつりなどの保存や伝承について
34 教育・文化全般		あなたや家族が日ごろ接している教育や文化全般について
余暇		35 自由時間
	36 余暇施設	スポーツ、レクリエーションなどのための身近な施設やそれらの利用のしやすさについて
	37 娯楽	県内の映画館、劇場、遊園地などでの娯楽・レジャーについて
	38 余暇情報	催し物・イベントなどの余暇情報を得る機会について
	39 自然と親しむ機会	ハイキングなど自然と親しむ機会について
	40 余暇全般	あなたの休日や余暇の過ごし方全般について
福祉・連帯	41 地域とのつながり	近所づきあいや地域で行なわれる行事への住民の参加について
	42 福祉施策	お年寄り、子ども、障害者などに対する国や県の施策について
	43 福祉・連帯全般	あなたがお住まいの地域での人のつながりや福祉サービス全般について
44	生活全般	あなたの生活全般について

(1) 「生活全般」の満足度

「生活全般」の満足度は、図表1-2の最下欄（10ページ）に示されるように、「満足」が8.9%、「どちらかといえば満足」が39.2%である。満足層（「満足」＋「どちらかといえば満足」）の比率は、前回（平成24年度調査）の42.9%を5.2ポイント、前々回（平成20年度調査）の44.7%を3.4ポイント上回る48.1%である。

また、「どちらかといえば不満」は9.1%、「不満」は3.2%であり、不満層（「どちらかといえば不満」＋「不満」）は、前々回の17.1%と前回の15.0%を下回る12.3%であった。満足層と不満層の差（満足傾向）は35.8%であり、前回の27.9%を7.9ポイント上回り、13年振りに30%台を回復した。なお、「どちらともいえない」という中間的な層は、前回の39.7%から2.4ポイント減少し37.3%となった。

(2) 「領域全般」の満足度

満足層の割合が最も大きい領域となったのは、前々回及び前回から引き続き、「居住環境全般」で56.4%である。次いで、「余暇全般」の48.1%、「安全全般」の46.3%、「健康全般」の43.0%、「労働全般」の39.8%、「所得・消費全般」の37.1%、「教育・文化全般」の28.0%、最後に「福祉・連帯全般」の27.1%の順であった。今回はすべての領域において前回よりも比率が増加しており、特に「所得・消費全般」が8.1ポイント増加したほか、「健康全般」は5.9ポイント、「安全全般」は5.7ポイント増加しており、領域全般における県民の満足層の割合は前回調査時に比べ拡大している。

また、すべての領域において満足傾向となっており、その傾向の強い順に示すと、43.7%の「居住環境全般」が最上位となり、次いで35.9%の「安全全般」、34.3%の「余暇全般」、32.6%の「健康全般」、25.6%の「労働全般」、19.8%の「教育・文化全般」、15.3%の「所得・消費全般」、12.5%の「福祉・連帯全般」と続いている。

前回の順位と比較すると、前回1位「居住環境全般」は変わらず、前回2位「余暇全般」が3位に後退した一方で前回3位「安全全般」が2位に上昇し、今回4位「健康全般」、5位「労働全般」、6位「教育・文化全般」の順位は変わらず、前回7位「福祉・連帯全般」と前回8位「所得・消費全般」が今回それぞれ8位と7位と、順位が入れ替わっている。なお、すべての領域において前回よりも満足傾向の比率が増加しており、特に「所得・消費全般」では+14.2ポイントと大幅に増加したほか、「健康全般」で+8.4ポイント、「安全全般」及び「福祉・連帯全般」でもそれぞれ+8.0ポイントと増加している。

「領域全般」の満足度を総合的に見ると、全体的に満足傾向が強まっていることが見て取れる。これは、いわゆる「リーマン・ショック」による世界的な経済不安定や、東日本大震災による大きな被害の影響が広く県民に残っていた時期に実施された前々回、前回の調査から、国による経済政策や災害復興の取り組み、県や市町村による地域振興の推進などから、社会的経済的な不安が徐々に払拭されてきた影響が表れていると考えられる。

(3) 「個別項目」の満足度

満足層の割合が大きい項目（50%以上）としては、大きい順に、「住宅」（66.9%）、「自然環境」（63.2%）、「日常医療」（58.8%）、「ごみ・生活排水」（56.2%）、「自由時間」（53.2%）、「大気汚染等」（51.7%）、「買い物」（50.1%）が挙げられる。なお、「住宅」「自然環境」「日常医療」「自由時間」の4項目は、過去3回の調査においても満足層の割合が50%以上となっている。

これに対して、満足層の割合が小さい項目（20%以下）としては、小さい順に「物価」（10.8%）、「高等教育の機会」（16.3%）、「公共交通機関」（18.2%）、「福祉施策」（18.7%）、「家庭教育」（18.9%）、「生涯学習」（19.4%）の6項目であり、「物価」「高等教育の機会」「家庭教育」「生涯学習」「福祉政策」の5つは前回から引き続き満足層が20%以下となっている。

一方、不満層の割合が大きい項目（50%以上）は、「公共交通機関」（56.4%）、「物価」（50.6%）の2項目であり、これらは過去3回の調査を含め、一貫して50%を超えている。

次に、満足傾向・不満傾向について見ると、満足傾向（満足層の割合が不満層の割合を上回るもの）が強い項目（30%以上）は、強い順に、「自然環境」（55.0%）、「住宅」（54.5%）、「日常医療」（45.2%）、「ごみ・生活排水」（41.5%）、「大気汚染等」（33.2%）、「自由時間」（30.7%）の6項目となった。一方、不満傾向（満足層の割合を不満層の割合が上回るもの）が強い項目は、強い順に、「物価」（39.8%）、「公共交通機関」（38.2%）、「娯楽」（21.2%）、「高等教育の機会」（10.5%）、「資産」（9.7%）、「福祉施策」（8.8%）、「所得」（5.7%）、「余暇情報」（3.1%）、「家庭教育」（1.3%）の9項目となった。

なお、前回との比較において、満足層の増減・不満層の増減を組み合わせで整理すると、次表のとおりである。

区分	「不満層」が減少 (変化なし含む)	「不満層」が増加
「満足層」が増加 (変化なし含む)	<input type="checkbox"/> 日常医療 <input type="checkbox"/> 救急医療 <input type="checkbox"/> 検診・相談 <input type="checkbox"/> 交通安全 <input type="checkbox"/> 防犯・防火 <input type="checkbox"/> 自然災害 <input type="checkbox"/> 自然環境 <input type="checkbox"/> 大気汚染等 <input type="checkbox"/> 公園広場等 <input type="checkbox"/> ごみ・生活排水 <input type="checkbox"/> 住宅 <input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 買い物 <input type="checkbox"/> 就職の機会 <input type="checkbox"/> 労働条件 <input type="checkbox"/> 仕事のやりがい <input type="checkbox"/> 所得 <input type="checkbox"/> 資産 <input type="checkbox"/> 消費 <input type="checkbox"/> 物価 <input type="checkbox"/> 小中高の教育 <input type="checkbox"/> 家庭教育 <input type="checkbox"/> 生涯学習 <input type="checkbox"/> 文化施設 <input type="checkbox"/> 文化財・伝統継承 <input type="checkbox"/> 余暇施設 <input type="checkbox"/> 自然と親しむ機会 <input type="checkbox"/> 地域とのつながり <input type="checkbox"/> 福祉施策	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 高等教育の機会 <input type="checkbox"/> 自由時間 <input type="checkbox"/> 余暇情報
「満足層」が減少		<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 <input checked="" type="checkbox"/> 娯楽

表の左上の象限（満足層増加・不満層減少：ともに「変化なし」含む）の項目は、満足度水準を引き上げる又は維持する方向に作用するが、ここには全体35項目中の8割以上となる29項目（前回19項目）が属する。一方、右下の象限（満足層減少・不満層増加）の項

目は、満足度水準を引き下げる方向に作用するため、今後注視していくべき項目と位置付けられる。今回は「公共交通機関」「娯楽」の2項目が属するだけであり、全体的に県民満足度は増加傾向にある。

前回と比較すると、前回、左下の象限にあった13項目のうち11項目、また右下の象限にあった「道路」が満足層の増加及び不満層の減少（ともに「変化なし」を含む）により左上の象限に移動し、多くの項目で満足度水準が向上している一方、前回左上の象限にあった「公共交通機関」及び左下の象限にあった「娯楽」が満足層の減少及び不満層の増加により、右下の象限に移動していることから、県民満足度水準の更なる向上のためには、これらの項目に注目していくことが重要である。

図表 1-2 質問項目別満足度（全県）

(単位：%)

領域	項目	年度	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
			■満足	■どちらともいえない	■不満	■どちらかといえば満足	■どちらかといえば不満	■わからない				
健康	日常医療	16	11.6	46.2	21.8	11.2	5.4	3.8	57.8	16.6	41.2	
		20	14.8	37.6	26.2	11.1	6.4	3.9	52.4	17.5	34.9	
		24	15.4	38.9	25.1	11.2	5.6	3.7	54.3	16.8	37.5	
		29	18.7	40.1	23.9	8.6	5.0	3.7	58.8	13.6	45.2	
	救急医療	16	5.1	22.4	28.7	16.2	12.5	15.1	27.5	28.7		1.2
		20	5.1	17.5	29.2	17.1	14.5	16.6	22.6	31.6		9.0
		24	6.0	20.5	31.5	15.6	11.1	15.3	26.5	26.7		0.2
		29	8.6	22.5	28.5	15.5	9.4	15.5	31.1	24.9	6.2	
	検診・相談	16	9.7	29.3	30.6	6.3	2.9	21.2	39.0	9.2	29.8	
		20	8.2	20.1	37.6	8.4	3.8	21.9	28.3	12.2	16.1	
		24	8.6	24.4	38.5	6.9	3.0	18.6	33.0	9.9	23.1	
		29	8.4	26.2	37.7	5.3	2.4	20.0	34.6	7.7	26.9	
	健康全般	16	5.5	36.0	36.2	10.3	3.8	8.2	41.5	14.1	27.4	
		20	6.5	26.3	39.6	12.5	5.1	10.1	32.8	17.6	15.2	
		24	7.5	29.6	39.6	8.6	4.3	10.5	37.1	12.9	24.2	
		29	9.7	33.3	37.5	7.3	3.1	9.1	43.0	10.4	32.6	

安全	交通安全	16	4.1	30.2	30.5	20.9	11.9	2.4	34.3	32.8	1.5	
		20	7.0	25.0	34.4	18.3	11.9	3.3	32.0	30.2	1.8	
		24	7.1	29.3	32.4	18.4	9.6	3.3	36.4	28.0	8.4	
		29	8.9	30.4	33.6	16.6	8.1	2.4	39.3	24.7	14.6	
	防犯・防火	16	5.2	28.6	39.1	13.3	5.4	8.4	33.8	18.7	15.1	
		20	7.0	27.1	40.6	10.7	4.7	10.0	34.1	15.4	18.7	
		24	6.5	31.8	39.7	10.4	4.1	7.5	38.3	14.5	23.8	
		29	8.6	32.8	36.5	8.6	3.6	9.9	41.4	12.2	29.2	
	自然災害	16	7.3	25.7	35.4	13.7	8.0	10.0	33.0	21.7	11.3	
		20	7.1	21.5	36.5	14.1	9.5	11.3	28.6	23.6	5.0	
		24	7.4	25.7	37.4	12.0	8.2	9.3	33.1	20.2	12.9	
		29	7.7	25.5	37.5	12.8	6.2	10.3	33.2	19.0	14.2	
	安全全般	16	4.5	36.5	39.2	11.6	3.7	4.6	41.0	15.3	25.7	
		20	5.6	30.4	42.1	12.0	4.3	5.7	36.0	16.3	19.7	
		24	6.6	34.0	41.8	9.2	3.5	4.9	40.6	12.7	27.9	
		29	8.9	37.4	37.3	8.0	2.4	6.0	46.3	10.4	35.9	

領域	項目	年度	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
			■満足	■どちらともいえない	■不満	■どちらかといえば満足	■どちらかといえば不満	■わからない				
居住環境	自然環境	16	14.3	40.7	22.5	11.2	6.4	5.1	55.0	17.6	37.4	
		20	18.1	39.9	22.9	9.3	5.2	4.7	58.0	14.5	43.5	
		24	21.2	41.0	21.9	7.1	4.0	4.8	62.2	11.1	51.1	
		29	24.2	39.0	23.5	5.6	2.6	5.1	63.2	8.2	55.0	
	大気汚染等	16	5.9	30.2	26.5	21.1	12.4	4.0	36.1	33.5	2.6	
		20	9.3	33.2	25.9	16.6	11.7	3.3	42.5	28.3	14.2	
		24	11.4	34.6	26.9	14.0	9.6	3.4	46.0	23.6	22.4	
		29	14.4	37.3	25.9	12.0	6.5	3.9	51.7	18.5	33.2	
	公園広場等	16	5.2	25.8	25.7	21.6	15.0	6.6	31.1	36.6	5.6	
		20	7.2	25.3	29.5	19.6	11.7	6.6	32.5	31.3	1.2	
		24	9.0	24.2	31.4	18.1	11.6	5.7	33.2	29.7	3.5	
		29	10.8	27.0	30.4	15.6	9.5	6.7	37.8	25.1	12.7	
	ごみ・生活排水	16	10.8	40.0	25.3	10.9	8.5	4.6	50.8	19.4	31.4	
		20	12.7	34.3	28.1	12.5	8.0	4.3	47.0	20.5	26.5	
		24	14.5	36.6	28.3	11.6	5.8	3.2	51.1	17.4	33.7	
		29	17.0	39.2	24.0	9.7	5.0	5.1	56.2	14.7	41.5	
	住宅	16	21.7	40.3	16.7	11.9	7.8	1.6	62.0	19.7	42.3	
		20	26.0	36.9	18.0	10.7	7.0	1.6	62.9	17.7	45.2	
		24	25.3	38.3	21.3	9.9	4.3	1.0	63.6	14.2	49.4	
		29	29.7	37.2	19.0	8.5	3.1	1.7	66.9	12.4	54.5	
	公共交通機関	16	5.1	19.0	18.5	23.3	30.6	3.6	24.1	53.9	29.8	
		20	5.7	13.1	18.1	22.3	36.8	3.8	18.8	59.1	40.3	
		24	5.7	15.5	21.1	23.0	30.2	4.4	21.2	53.2	32.0	
		29	4.9	13.3	20.9	23.8	32.6	4.5	18.2	56.4	38.2	
	道路	16	6.0	30.4	24.4	21.0	16.3	1.9	36.4	37.3	0.9	
		20	7.6	28.1	26.5	18.8	17.0	2.1	35.7	35.8	0.1	
		24	6.8	28.1	27.4	20.6	15.5	1.6	34.9	36.1	1.2	
		29	7.7	28.8	27.5	20.6	12.8	2.6	36.5	33.4	3.1	
買い物	16	11.7	42.9	17.7	14.2	12.4	1.1	54.6	26.6	28.0		
	20	13.8	34.3	20.7	16.7	13.3	1.2	48.1	30.0	18.1		
	24	13.1	36.4	21.2	15.2	13.3	0.9	49.5	28.5	21.0		
	29	14.7	35.4	20.3	16.4	11.6	1.6	50.1	28.0	22.1		
居住環境全般	16	6.9	46.7	29.0	12.2	3.6	1.6	53.6	15.8	37.8		
	20	10.4	40.2	31.6	11.9	4.4	1.5	50.6	16.3	34.3		
	24	10.9	41.2	33.1	8.9	4.3	1.6	52.1	13.2	38.9		
	29	13.2	43.2	29.1	9.0	3.7	1.8	56.4	12.7	43.7		

労働	就職の機会	16	3.5	13.3	28.8	14.9	10.0	29.5	16.8	24.9	8.1
		20	4.6	14.4	28.1	14.4	11.1	27.4	19.0	25.5	6.5
		24	4.6	14.1	32.0	13.0	9.7	26.5	18.7	22.7	4.0
		29	6.8	16.1	32.2	11.8	8.5	24.6	22.9	20.3	2.6
	労働条件	16	4.1	21.0	28.5	14.2	8.4	23.8	25.1	22.6	2.5
		20	4.7	21.8	28.4	13.9	10.3	20.8	26.5	24.2	2.3
		24	6.3	18.2	31.9	12.8	9.7	21.0	24.5	22.5	2.0
		29	6.7	21.8	30.4	11.2	9.3	20.6	28.5	20.5	8.0
	仕事のやりがい	16	10.9	28.2	26.2	7.3	5.9	21.5	39.1	13.2	25.9
		20	11.0	30.7	25.1	8.2	5.8	19.1	41.7	14.0	27.7
		24	11.7	29.3	27.2	7.0	6.0	18.7	41.0	13.0	28.0
		29	12.3	29.0	26.5	7.4	5.3	19.5	41.3	12.7	28.6
	労働全般	16	7.4	29.9	26.5	9.3	5.9	21.1	37.3	15.2	22.1
		20	8.8	30.4	26.0	9.8	6.3	18.8	39.2	16.1	23.1
		24	9.9	28.7	28.9	8.3	6.3	17.9	38.6	14.6	24.0
		29	10.8	29.0	26.8	8.0	6.2	19.2	39.8	14.2	25.6

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		■満足		■どちらかといえば満足		■どちらかといえば不満					
		■どちらともいえない		■不満		■わからない					
		年度									
所得・消費	所得	16	2.9	19.5	30.6	23.3	17.5	6.1	22.4	40.8	18.4
		20	4.0	20.0	29.0	21.0	21.1	4.9	24.0	42.1	18.1
		24	3.9	15.9	36.0	19.1	19.4	5.7	19.8	38.5	18.7
		29	6.7	20.7	34.1	18.3	14.8	5.4	27.4	33.1	5.7
	資産	16	2.6	14.6	35.9	19.8	15.6	11.6	17.2	35.4	18.2
		20	2.7	13.6	34.2	18.7	20.2	10.5	16.3	38.9	22.6
		24	3.0	13.1	37.9	19.1	17.2	9.7	16.1	36.3	20.2
		29	5.2	15.7	38.5	16.6	14.0	10.0	20.9	30.6	9.7
	消費	16	3.9	28.4	37.3	14.3	6.6	9.5	32.3	20.9	11.4
		20	4.5	23.8	37.9	16.1	8.9	8.9	28.3	25.0	3.3
		24	4.3	23.7	41.1	14.9	6.4	9.7	28.0	21.3	6.7
		29	5.9	22.1	41.4	13.4	7.3	9.9	28.0	20.7	7.3
	物価	16	0.5	11.5	29.9	29.3	24.1	4.6	12.0	53.4	41.4
		20	0.4	8.3	23.1	64.0	2.7	2.7	2.0	87.1	85.1
		24	1.6	8.5	33.3	26.5	26.6	3.5	10.1	53.1	43.0
		29	2.4	8.4	34.2	28.3	22.3	4.4	10.8	50.6	39.8
	所得・消費全般	16	3.5	31.8	35.6	16.8	9.0	3.2	35.3	25.8	9.5
		20	3.3	24.8	35.1	18.9	14.7	3.2	28.1	33.6	5.5
		24	4.7	24.3	39.8	17.3	10.6	3.4	29.0	27.9	1.1
		29	7.4	29.7	38.7	13.9	7.9	2.4	37.1	21.8	15.3

教育・文化	幼稚園・保育所	16	6.4	30.1	27.2	6.0	3.8	26.5	36.5	9.8	26.7
		20	6.4	26.8	27.3	6.5	4.2	28.8	33.2	10.7	22.5
		24	7.4	23.3	30.7	6.7	4.7	27.1	30.7	11.4	19.3
		29	7.7	24.8	29.6	7.0	5.0	25.9	32.5	12.0	20.5
	小中の教育	16	3.3	22.1	28.8	12.9	8.3	24.7	25.4	21.2	4.2
		20	4.4	19.9	29.1	13.3	8.0	25.2	24.3	21.3	3.0
		24	4.8	18.9	30.7	11.8	8.3	25.4	23.7	20.1	3.6
		29	6.3	22.9	33.3	9.4	4.6	23.5	29.2	14.0	15.2
	高等教育の機会	16	1.4	11.5	30.4	17.7	10.2	28.8	12.9	27.9	15.0
		20	2.2	11.1	28.8	18.9	10.2	28.7	13.3	29.1	15.8
		24	2.5	10.2	33.2	16.6	9.6	27.9	12.7	26.2	13.5
		29	2.8	13.5	31.8	18.1	8.7	25.1	16.3	26.8	10.5
	家庭教育	16	1.5	14.1	35.8	16.9	14.3	17.5	15.6	31.2	15.6
		20	1.7	12.3	34.6	20.4	14.8	16.2	14.0	35.2	21.2
		24	2.6	11.1	39.2	16.4	11.8	18.9	13.7	28.2	14.5
		29	3.6	15.3	41.7	13.1	7.1	19.2	18.9	20.2	1.3
	生涯学習	16	2.1	17.5	38.8	14.1	5.4	22.1	19.6	19.5	0.1
		20	2.3	17.7	39.0	11.4	6.5	23.1	20.0	17.9	2.1
		24	2.5	14.9	43.3	11.3	4.6	23.5	17.4	15.9	1.5
		29	3.4	16.0	42.9	9.7	4.4	23.6	19.4	14.1	5.3
	文化施設	16	5.4	31.6	27.9	14.8	8.0	12.3	37.0	22.8	14.2
		20	6.6	29.8	31.0	11.6	7.7	13.3	36.4	19.3	17.1
		24	7.2	31.0	31.4	11.0	5.5	13.8	38.2	16.5	21.7
		29	7.4	32.9	31.5	10.1	5.1	13.0	40.3	15.2	25.1
	文化財・伝統継承	16	3.5	25.4	40.8	8.5	2.7	19.1	28.9	11.2	17.7
		20	4.4	22.8	38.8	10.0	3.6	20.3	27.2	13.6	13.6
		24	4.9	24.0	40.5	8.3	3.2	19.1	28.9	11.5	17.4
		29	5.1	27.2	40.0	7.6	2.2	17.9	32.3	9.8	22.5
教育・文化全般	16	2.1	22.5	47.5	10.3	2.1	15.6	24.6	12.4	12.2	
	20	2.6	20.3	47.7	9.4	3.2	17.0	22.9	12.6	10.3	
	24	3.4	21.2	48.2	7.9	2.5	16.8	24.6	10.4	14.2	
	29	3.8	24.2	46.6	5.9	2.3	17.2	28.0	8.2	19.8	

領域	項目	年度	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
			満足	どちらともいえない	不満	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	わからない				
余 暇	自由時間	16	13.2	39.3	22.9	13.5	8.5	2.6	52.5	22.0	30.5	
		20	15.3	40.8	21.0	11.7	9.4	1.7	56.1	21.1	35.0	
		24	14.4	35.6	26.7	12.9	8.6	1.8	50.0	21.5	28.5	
		29	16.6	36.6	22.4	13.4	9.1	1.9	53.2	22.5	30.7	
	余暇施設	16	3.4	20.7	32.5	18.7	11.5	13.2	24.1	30.2	6.1	
		20	4.3	19.4	31.2	19.2	10.9	15.0	23.7	30.1	6.4	
		24	4.8	19.5	33.6	17.6	9.8	14.8	24.3	27.4	3.1	
		29	5.4	19.9	33.8	16.3	8.9	15.7	25.3	25.2	0.1	
	娯楽	16	3.1	20.9	31.1	18.6	12.8	13.5	24.0	31.4	7.4	
		20	3.7	18.1	31.0	19.4	15.9	11.8	21.8	35.3	13.5	
		24	2.6	18.5	31.0	20.2	15.0	12.7	21.1	35.2	14.1	
		29	4.1	16.4	27.0	23.3	18.4	10.8	20.5	41.7	21.2	
	余暇情報	16	3.0	19.0	38.3	18.4	8.9	12.5	22.0	27.3	5.3	
		20	2.3	19.1	39.5	17.4	9.2	12.5	21.4	26.6	5.2	
		24	2.7	18.9	41.9	15.7	8.3	12.5	21.6	24.0	2.6	
		29	3.8	18.3	39.9	16.4	8.8	12.8	22.1	25.2	3.1	
	自然と親しむ機会	16	5.9	28.4	38.4	8.0	3.6	15.8	34.3	11.6	22.7	
		20	7.1	28.1	37.9	7.9	2.4	16.7	35.2	10.3	24.9	
		24	6.1	27.2	40.6	6.8	2.9	16.4	33.3	9.7	23.6	
		29	8.5	25.8	39.5	6.2	2.0	18.0	34.3	8.2	26.1	
	余暇全般	16	6.9	39.4	34.4	10.7	4.4	4.2	46.3	15.1	31.2	
		20	9.4	38.8	34.4	9.9	4.3	3.2	48.2	14.2	34.0	
		24	8.8	36.5	36.6	10.2	3.6	4.4	45.3	13.8	31.5	
		29	11.0	37.1	34.6	9.4	4.4	3.9	48.1	13.8	34.3	

福 祉 ・ 連 帯	地域との つながり	16	6.5	34.9	35.4	10.5	4.2	8.5	41.4	14.7	26.7
		20	7.4	33.5	35.5	9.3	5.4	9.1	40.9	14.7	26.2
		24	8.0	29.6	41.1	9.0	3.7	8.5	37.6	12.7	24.9
		29	9.4	28.4	39.8	8.6	4.1	9.7	37.8	12.7	25.1
	福祉施策	16	3.0	16.5	35.5	20.9	12.6	11.5	19.5	33.5	14.0
		20	1.8	11.9	31.6	23.4	17.8	13.5	13.7	41.2	27.5
		24	2.0	13.4	37.4	20.8	12.7	13.7	15.4	33.5	18.1
		29	3.2	15.5	39.1	17.7	9.8	14.7	18.7	27.5	8.8
	福祉・連帯 全般	16	3.6	23.1	40.5	13.7	5.0	14.1	26.7	18.7	8.0
		20	3.5	20.1	40.7	12.4	7.9	15.4	23.6	20.3	3.3
		24	3.4	20.7	40.8	13.8	5.8	15.5	24.1	19.6	4.5
		29	5.0	22.1	42.4	9.4	5.2	15.9	27.1	14.6	12.5

生 活 全 般	16	3.6	44.6	34.7	9.0	3.7	4.2	48.2	12.7	35.5
	20	5.0	39.7	35.4	12.4	4.7	2.7	44.7	17.1	27.6
	24	6.9	36.0	39.7	10.7	4.3	2.5	42.9	15.0	27.9
	29	8.9	39.2	37.3	9.1	3.2	2.3	48.1	12.3	35.8

(注) ※満足層＝「満足」＋「どちらかといえば満足」
 ※不満層＝「どちらかといえば不満」＋「不満」
 ※満足傾向＝満足層－不満層＞0 不満傾向＝満足層－不満層＜0
 ※「わからない」は無回答を含む。
 ※四捨五入の関係から±0.1%異なる場合がある。以下の諸表においても同様である。

2 「生活全般」の属性別満足度

(1) 地域別による満足度

図表1-3は、「生活全般」の満足度について地域別に示した表である。

まず、満足層の割合の大きい地域順は、「峡南」(51.7%)、「峡中」(51.0%)、「峡北」(48.3%)、「峡東」(46.6%)、「富士・東部」(42.6%)となっている。一方、不満層の割合を見ると、大きい順に、「峡東」(14.1%)、「富士・東部」(14.0%)、「峡中」(11.7%)、「峡南」(11.2%)、「峡北」(7.7%)となっている。

次に、図表1-4に示す方法で算定した満足度得点を見ると、得点の高い地域順に、「峡北」(48点)、「峡中」(46点)、「峡南」(45点)、「峡東」(41点)、「富士・東部」(34点)となっている。

最後に、満足傾向・不満傾向について見ると、すべての地域において満足傾向(満足層>不満層)となっており、満足傾向の強い順としては、「峡北」(40.6%)、「峡南」(40.5%)、「峡中」(39.3%)、「峡東」(32.5%)、「富士・東部」(28.6%)となっている。

図表 1-3 「生活全般」の満足度（地域別）

(単位：点、%)

地域	満足度 年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
全 県	16	36	3.6	44.6	48.2	34.7	9.0	3.7	12.7	4.2	35.5	
	20	29	5.0	39.7	44.7	35.4	12.4	4.7	17.1	2.7	27.6	
	24	31	6.9	36.0	42.9	39.7	10.7	4.3	15.0	2.5	27.9	
	29	42	8.9	39.2	48.1	37.3	9.1	3.2	12.3	2.3	35.8	
峡中	16	32	3.3	42.4	45.7	36.3	9.5	4.1	13.6	4.2	32.1	
	20	30	4.3	41.4	45.7	35.6	11.5	4.6	16.1	2.7	29.6	
	24	37	7.8	37.3	45.0	39.4	10.2	3.0	13.2	2.4	31.8	
	29	46	9.1	41.9	51.0	35.0	8.5	3.2	11.7	2.3	39.3	
峡北	16	38	2.4	45.3	47.7	37.6	8.2	2.4	10.6	4.1	37.1	
	20	26	6.4	32.7	39.1	43.6	9.6	5.1	14.7	2.6	24.4	
	24	30	7.1	37.4	44.5	35.5	12.9	4.5	17.4	2.6	27.1	
	29	48	9.1	39.2	48.3	44.1	6.3	1.4	7.7	0.0	40.6	
峡東	16	36	4.1	45.3	49.4	35.2	9.1	4.1	13.2	2.2	36.2	
	20	25	4.1	38.4	42.5	35.1	13.9	4.5	18.4	4.0	24.1	
	24	20	4.3	37.6	41.8	36.9	13.5	6.4	19.9	1.4	21.9	
	29	41	9.4	37.2	46.6	35.4	11.6	2.5	14.1	4.0	32.5	
峡南	16	54	5.2	55.2	60.4	26.9	3.0	5.2	8.2	4.5	52.2	
	20	22	3.2	43.5	46.7	26.6	20.2	4.0	24.2	2.4	22.5	
	24	24	5.2	35.7	40.9	37.4	13.9	4.3	18.3	3.5	22.6	
	29	45	7.8	44.0	51.7	35.3	6.9	4.3	11.2	1.7	40.5	
富士・東部	16	38	3.8	44.4	48.2	32.9	10.3	2.9	13.2	5.8	35.0	
	20	32	6.8	39.2	46.0	34.9	11.8	5.0	16.8	2.3	29.2	
	24	30	7.4	32.1	39.5	44.4	7.9	4.9	12.8	3.2	26.7	
	29	34	8.4	34.2	42.6	41.1	9.9	4.1	14.0	2.3	28.6	

図表 1-4 満足度の得点と算式

段階	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえ ない	どちらかといえ ば不満足	不満
得点	+ 200	+ 100	0	- 100	- 200

$$\text{満足度得点算式} = \{200 \times A + 100 \times B + 0 \times C + (-100) \times D + (-200) \times E\} / m$$

- A: 「満足」と答えた回答者数
- B: 「どちらかといえば満足」と答えた回答者数
- C: 「どちらともいえない」と答えた回答者数
- D: 「どちらかといえば不満」と答えた回答者数
- E: 「不満」と答えた回答者数
- m: 「わからない」または「不明」を除いた回答者数 (A+B+C+D+E)

(2) 性別による満足度

図表1-5は、性別で見た「生活全般」の満足度を示した表である。

まず、満足層の割合について見ると、「男性」の45.8%に対して「女性」は50.5%と、「女性」の方が4.7ポイント大きくなっている。一方、不満層では「男性」の13.4%に対して「女性」は11.0%と、「男性」の方が2.4ポイント大きい。

満足度得点については、「男性」(37点)より「女性」(49点)が12点高く、満足傾向についても、「女性」(39.5%)が「男性」(32.4%)よりも7.1ポイント大きいなど、総じて、「女性」の方が「男性」よりも満足度水準が高い。

前回の結果と比較すると、「男性」「女性」ともに満足層の割合は拡大して不満層の割合は縮小、満足度得点は増加していることから、性別に関係なく全体的に満足度水準は向上している。

図表 1-5 「生活全般」の満足度（性別）

(単位: 点、%)

性別	年度	満足度 得点	満足層			どちら とも いえ ない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不 満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえ ば 満足	計		どちらか といえ ば 不満	不満	計			
男 性	16	33	3.7	42.6	46.3	35.5	10.1	3.9	14.0	4.0	32.3	
	20	18	4.2	34.5	38.7	38.0	15.0	5.5	20.5	2.8	18.2	
	24	30	6.5	35.5	42.0	40.9	11.1	4.1	15.2	2.0	26.8	
	29	37	7.1	38.7	45.8	39.3	10.2	3.3	13.4	1.5	32.4	
女 性	16	40	3.5	46.6	50.1	34.0	8.0	3.5	11.5	4.4	38.6	
	20	39	5.7	44.5	50.2	33.1	10.1	3.9	14.0	2.7	36.2	
	24	33	7.3	36.6	43.9	38.2	10.2	4.5	14.7	3.1	29.2	
	29	49	10.8	39.7	50.5	35.2	7.9	3.1	11.0	3.3	39.5	

(3) 年齢別による満足度

10歳階級による年齢別の「生活全般」の満足度は、図表1-6のとおりである。

まず、満足層の割合について見ると、大きい順に、82.5%の「18～19歳」、59.2%の「70歳以上」、48.1%の「50代」、46.7%の「40代」、44.1%の「60代」、43.6%の「20代」、42.3%の「30代」となっている。一方、不満層の割合を見ると、小さい順に、5.0%の「18～19歳」、6.4%の「70歳以上」、12.4%の「40代」、12.6%の「50代」、13.3%の「60代」、15.3%の「20代」、15.8%の「30代」となっている。

次に、満足度得点について見ると、高い順に、「18～19歳」(110点)、「70歳以上」(70点)、「50代」(41点)、「40代」(39点)、「60代」(33点)、「20代」及び「30代」(32点)となっている。

前回の結果との比較では、不満層の割合はほぼすべての年齢層で縮小しているが、満足層の割合は「70歳以上」(+13.6ポイント)、「50代」(+11.1ポイント)で2桁の増加が見られる一方、「30代」(-4.7ポイント)、「60代」(-1.2ポイント)で減少しているなど年齢層で傾向にばらつきが見られる。満足度得点では、「70歳以上」(+29点)、「50代」(+24点)で大きく増加している一方、「60代」(-4点)、「20代」(-2点)では減少するなど、満足度得点においても年齢層による傾向のばらつきが確認できる。

図表 1-6 「生活全般」の満足度（年齢別）

(単位：点、%)

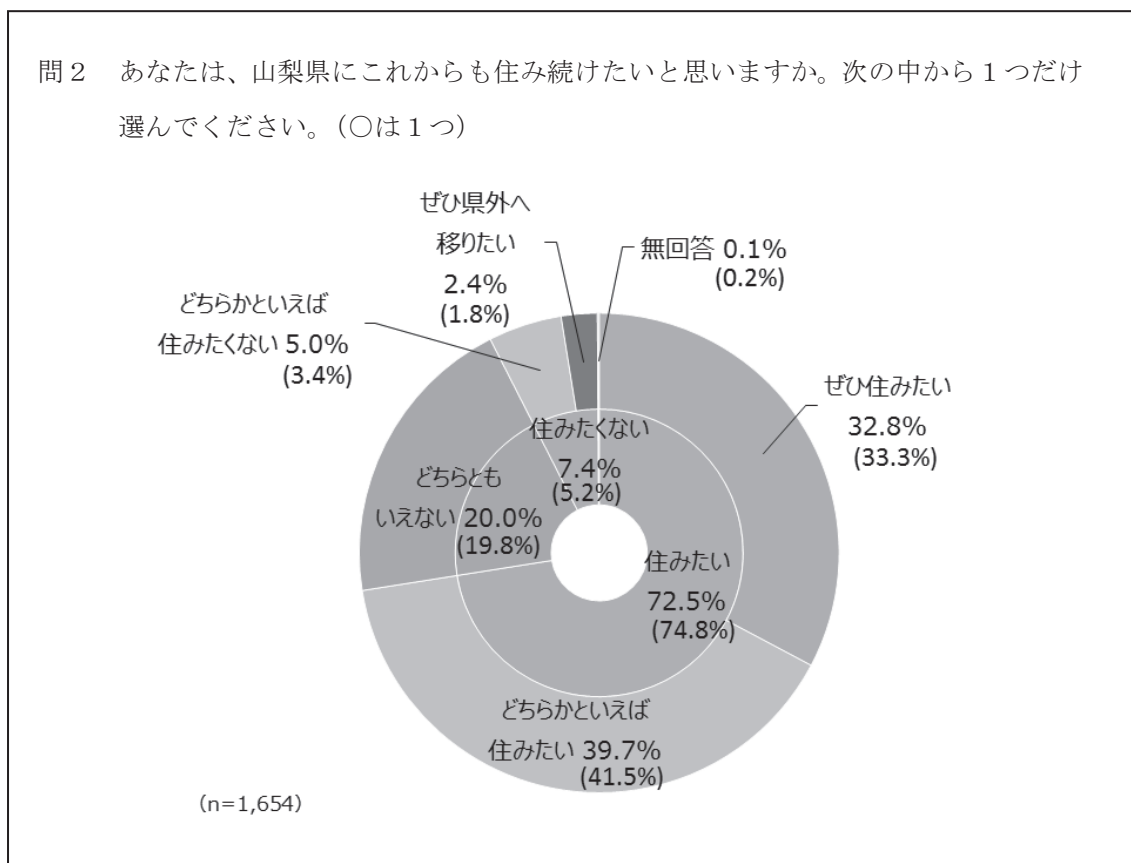
満足度 年 齢	年 度	満足度 得 点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満 足 傾 向 (+)	不 満 傾 向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
18 ～19歳	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29	110	32.5	50.0	82.5	10.0	2.5	2.5	5.0	2.5	77.5	—
20 ～29歳	16	32	5.9	37.3	43.2	39.6	11.0	3.1	14.1	3.1	29.1	—
	20	37	7.2	37.2	44.4	38.2	10.6	2.9	13.5	3.9	30.9	—
	24	34	7.5	35.4	42.9	38.5	13.7	1.9	15.6	3.1	27.3	—
	29	32	7.9	35.6	43.6	38.6	10.9	4.5	15.3	2.5	28.2	—
30 ～39歳	16	34	3.6	44.0	47.6	35.3	10.0	3.9	13.9	3.2	33.7	—
	20	17	2.9	36.9	39.8	38.0	15.0	5.5	20.5	1.8	19.3	—
	24	31	5.4	41.6	47.0	34.4	11.3	5.4	16.7	1.8	30.3	—
	29	32	9.5	32.9	42.3	39.6	11.3	4.5	15.8	2.3	26.6	—
40 ～49歳	16	25	1.3	41.2	42.5	39.0	11.3	4.1	15.4	3.1	27.1	—
	20	12	2.7	36.9	39.6	33.9	15.0	8.0	23.0	3.7	16.6	—
	24	31	5.8	35.3	41.1	44.5	10.4	2.8	13.2	1.2	27.9	—
	29	39	6.5	40.2	46.7	38.8	9.6	2.7	12.4	2.1	34.4	—
50 ～59歳	16	29	4.3	39.3	43.6	40.9	9.6	4.6	14.2	1.3	29.4	—
	20	29	5.8	39.2	45.0	35.1	13.7	4.4	18.1	1.8	26.9	—
	24	17	6.1	30.9	37.0	41.1	14.6	5.8	20.4	1.5	16.6	—
	29	41	7.2	41.0	48.1	37.2	10.6	2.0	12.6	2.0	35.5	—
60 ～69歳	16	45	1.0	52.4	53.4	30.6	7.2	2.3	9.5	6.6	43.9	—
	20	37	4.5	42.8	47.3	37.0	9.9	2.7	12.6	3.1	34.7	—
	24	37	7.6	37.7	45.3	39.5	9.9	3.4	13.3	1.8	32.0	—
	29	33	5.6	38.5	44.1	40.5	8.9	4.4	13.3	2.1	30.8	—
70歳 以上	16	55	6.3	52.5	58.8	23.6	5.3	4.3	9.6	8.0	49.2	—
	20	47	7.9	46.3	54.2	30.4	8.8	4.0	12.8	2.6	41.4	—
	24	41	8.9	36.7	45.6	37.4	5.0	5.7	10.7	6.4	34.9	—
	29	70	16.5	42.7	59.2	31.1	4.9	1.5	6.4	3.4	52.8	—

(注) ※平成 29 年度より「18～19歳」の年齢層を追加

第2章 主要な事項についての県民の選好度

1 「輝き あんしん プラチナ社会」実現の前提となる県民の意識

(1) 定住意識



(注) ※図表()内は前回(平成24年度)調査時の数値

山梨県への定住意識については、「ぜひ住みたい」(32.8%)と「どちらかといえば住みたい」(39.7%)の両方を合わせた「住みたい」(以下「住みたい意向」という。)が72.5%である。また、「どちらかといえば住みたくない」(5.0%)と「ぜひ県外へ移りたい」(2.4%)の両方を合わせた「住みたくない」(以下「住みたくない意向」という。)は7.4%となっている。

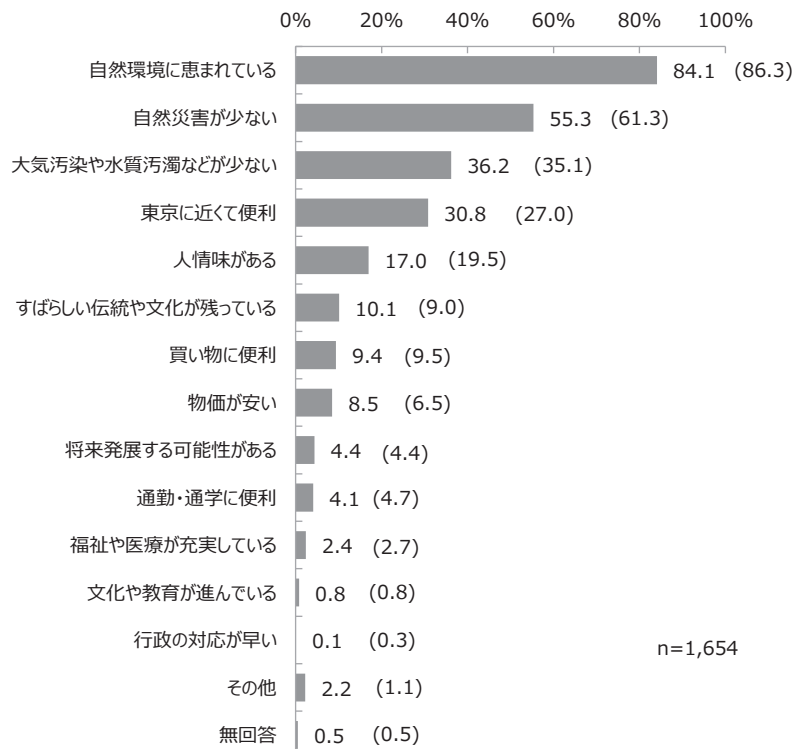
前回との比較で見ても、「住みたい意向」「住みたくない意向」の割合に大きな変化は見られないものの、「住みたい意向」が減少傾向にある一方、「住みたくない意向」が増加傾向にある結果となっている。

従来、性別では「女性」、年齢別では高齢世代、居住年数別では長期居住者層が、本県に対して比較的好意的な定住意識を持つという基本構造があると考えられていたが、今回の調査結果では、高齢世代や長期居住者層の定住意識は比較的高いものの、性別では「男性」が「女性」を上回るなどの変化も生じていることから、今後の推移に注目していく必要がある。

(2) 山梨県のよいところ、よくないところ

A. 山梨県のよいところ

問3 あなたは、山梨県に住んで、本県のどのような点がよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



(注) ※図表 () 内は前回 (平成24年度) 調査時の数値

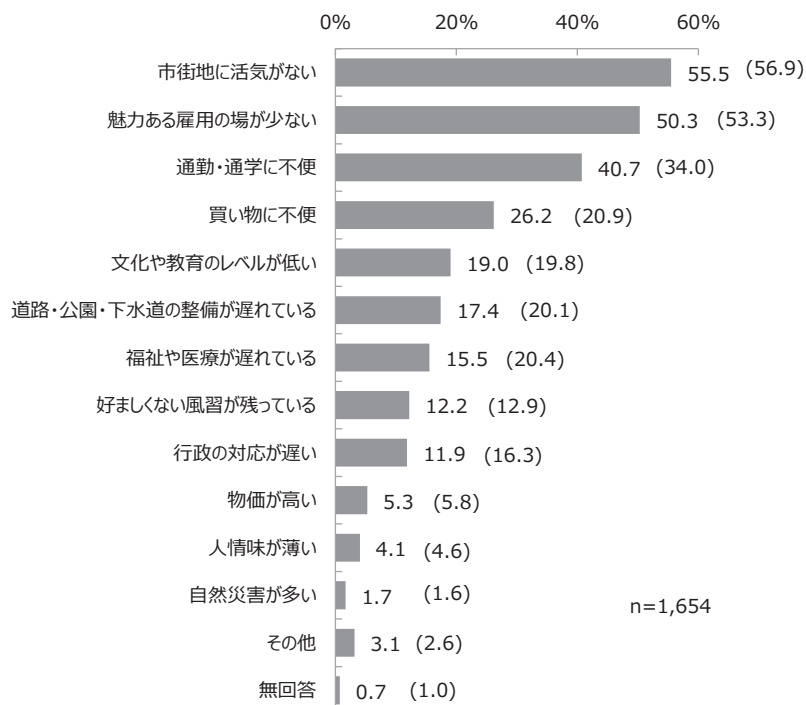
山梨県のよいところについては、「自然環境に恵まれている」(84.1%)が群を抜いて高い回答率を示している。以下「自然災害が少ない」(55.3%)、「大気汚染や水質汚濁などが少ない」(36.2%)、「東京に近くて便利」(30.8%)、「人情味がある」(17.0%)と続いている。

「自然環境に恵まれている」はすべての属性で高い回答率を示し、県民が「山梨県のよいところ」として、強く認識している結果となった。また、「自然災害が少ない」も5割を超える回答率を示しており、急峻な地形が多いことなどから、一般的に土砂災害が多いとのイメージを持たれやすい本県ではあるが、県民意識としては、逆に災害面での安全性の評価が高い結果となった。また、「学生」や「18～19歳」「20代」を中心とした若年層に「東京に近くて便利」に示される地理的優位性も高い評価を持って受け止められている。

これらのことから、本県は豊かな自然環境に恵まれながら、災害頻度も少ない安全な地域であり、更に東京に近い利便性が享受できる点が魅力的と県民に認識されており、これが本県の魅力の源泉になっていると考えられる。

B. 山梨県のよくないところ

問4 あなたは、山梨県のどのような点がよくないと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



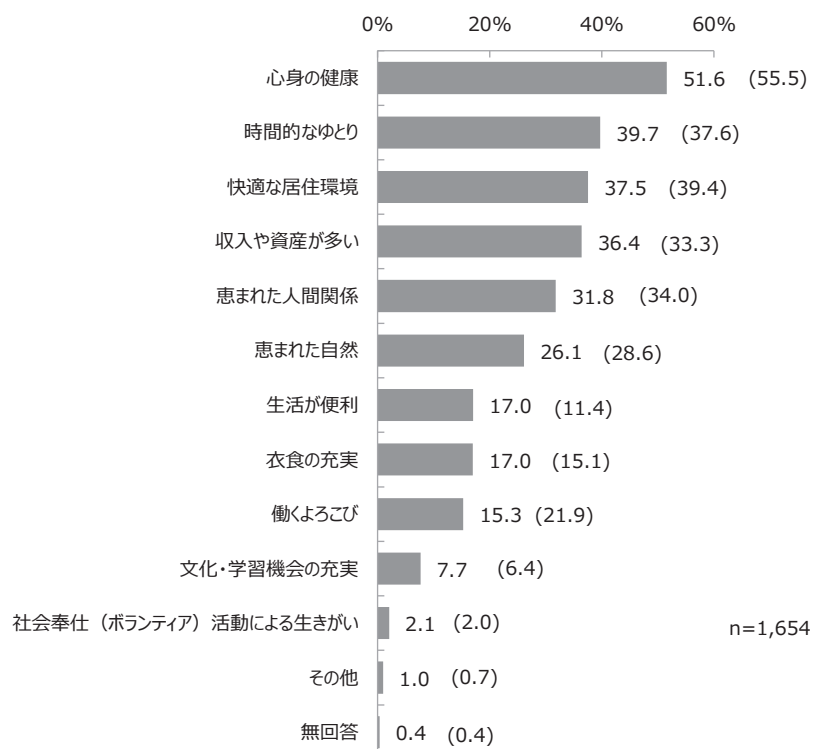
(注) ※図表 () 内は前回 (平成 24 年度) 調査時の数値

山梨県のよくないところについては、「市街地に活気がない」(55.5%)の回答率が最も高く、以下「魅力ある雇用の場が少ない」(50.3%)、「通勤・通学に不便」(40.7%)、「買い物に不便」(26.2%)、「文化や教育のレベルが低い」(19.0%)と続いている。

「市街地に活気がない」や「魅力ある雇用の場が少ない」は依然として5割以上の回答率となっており、県民が特に不満を強く感じ続けていることが確認できるが、これらに加えて、「通勤・通学に不便」「買い物に不便」など、日常生活に密接に関係した項目に対する回答率も大きく上昇しており、これらの項目を含めて今後も注目していく必要がある。

(3) 「豊かさ」のイメージ

問5 あなたにとって「豊かさ」とは何ですか。あなたのイメージに近いものを次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



(注) ※図表 () 内は前回(平成24年度)調査時の数値

※「生活が便利」と「衣食の充実」は回答率が同率であるが、回答数は「生活が便利」が上回っている。

豊かさのイメージについては、「心身の健康」(51.6%)の回答率が最も高く、以下「時間的なゆとり」(39.7%)、「快適な居住環境」(37.5%)、「収入や資産が多い」(36.4%)、「恵まれた人間関係」(31.8%)と続いている。

県民は「豊かさ」という言葉から、まずは「心身の健康」を思い浮かべ、それから「時間的なゆとり」や「恵まれた人間関係」などのライフスタイルや、「快適な居住環境」や「収入や資産が多い」といった生活水準の良さをイメージしていると考えられる。

一方で、自己研鑽や社会貢献に関わる項目(「文化・学習機会の充実」、「社会奉仕(ボランティア)活動による生きがい」)は、過去調査と同様、回答率が低く、下位に留まる結果となった。

2 行政の施策についての要望

問6 あなたが行政に対してもっとも力を入れてほしいと思う施策はどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。(○は3つまで)



(注) ※選択肢の編成や表現を変更

最も力を入れてほしい行政施策については、「バス・鉄道などの公共交通機関の充実と利便性の向上」(33.9%)の回答率が最も高く、以下「高齢者、障害者をはじめ誰もが安心して生活できる地域福祉の推進」(29.4%)、「雇用の安定に向けた人材の育成や企業等のニーズに応じた就業の支援」(27.1%)、「子育てしやすい環境づくりや、育児への支援」(21.6%)、「適切な医療が受けられる体制の充実や、健康づくりへの支援」(19.4%)と続いている。

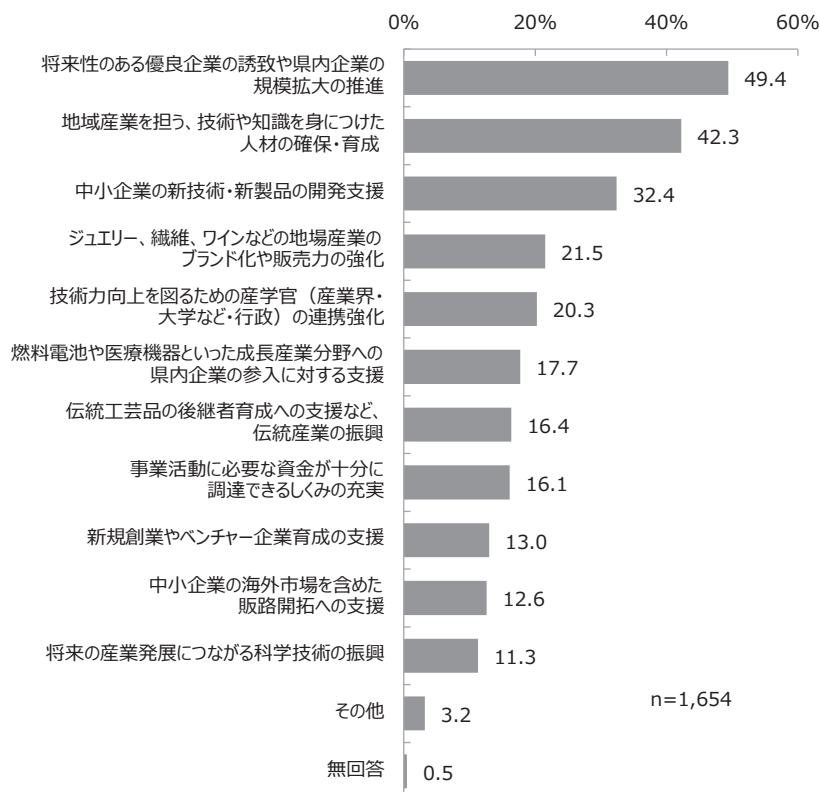
県民満足度における「居住環境領域」(8ページ)で、過去調査を含めて一貫して不満傾向となっている「公共交通機関」に関する項目が、行政施策の要望として1位となったことにより、県民が強い不満を抱いている分野であることが明らかとなった。

一方、今回、回答率が大きく下がった人材育成や就業支援に関する項目についても、依然として3割近い回答率となったことから、これらの項目についても引き続き注目していく必要がある。

3 「ダイナミックやまなし総合計画」を推進する上での主要な課題や施策についての関心・要望

(1) 地域産業の振興

問7 経済の活力を高め、豊かな県民生活を維持するためには、競争力のある地域産業の振興が必要とされています。山梨の産業の成長・発展のため、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



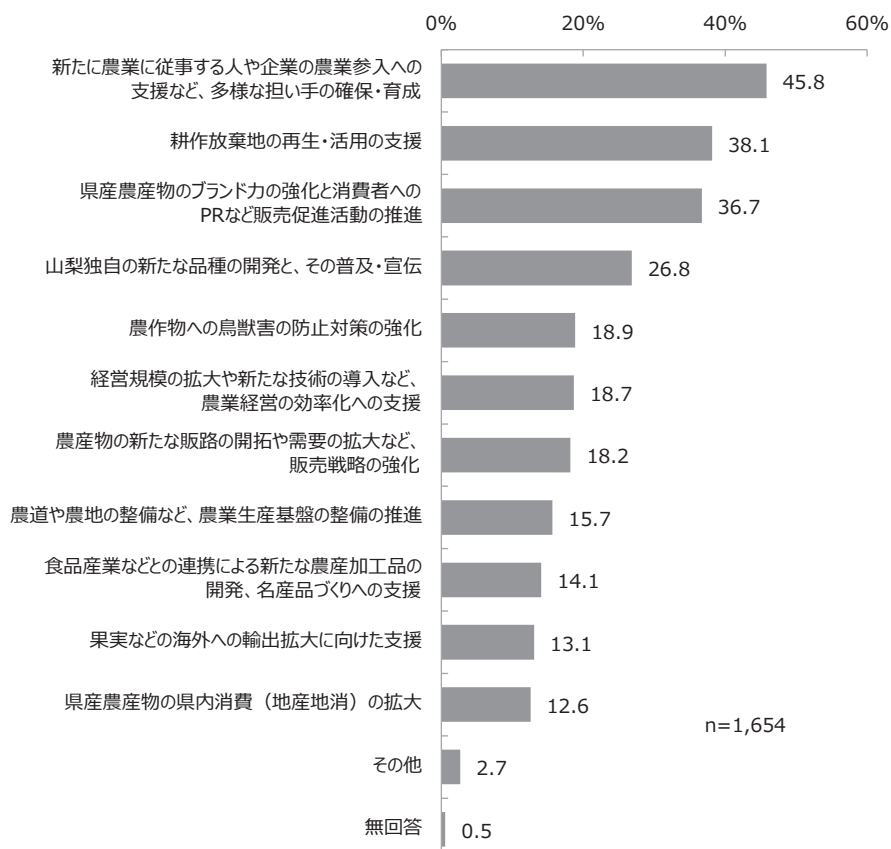
(注) ※選択肢の編成や表現を変更

地域産業の振興に関し行政に求めることについては、「将来性のある優良企業の誘致や県内企業の規模拡大の推進」(49.4%)が最も高い回答率を示し、以下「地域産業を担う、技術や知識を身につけた人材の確保・育成」(42.3%)、「中小企業の新技術・新製品の開発支援」(32.4%)、「ジュエリー、繊維、ワインなどの地場産業のブランド化や販売力の強化」(21.5%)、「技術力向上を図るための産学官(産業界・大学など・行政)の連携強化」(20.3%)と続いている。

地域経済の活性化や雇用の拡大に向けて、既存企業の誘致や規模拡大が最も有効な産業振興施策として県民が大きな期待を寄せているとともに、産業を支える「ひと」の確保・育成や、県内に根ざす中小企業の技術開発力の向上も重要な課題として認識されており、さらに地場産業や伝統産業といった山梨特有の産業の振興についても、女性や若い年齢層を中心とした県民から推進すべき項目として関心を集めている。

(2) 農業の振興

問8 農業は、食料生産のほか、農村景観の形成、災害の防止など、生活にさまざまな恵みをもたらしています。山梨の農業を今後さらに発展させていくため、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



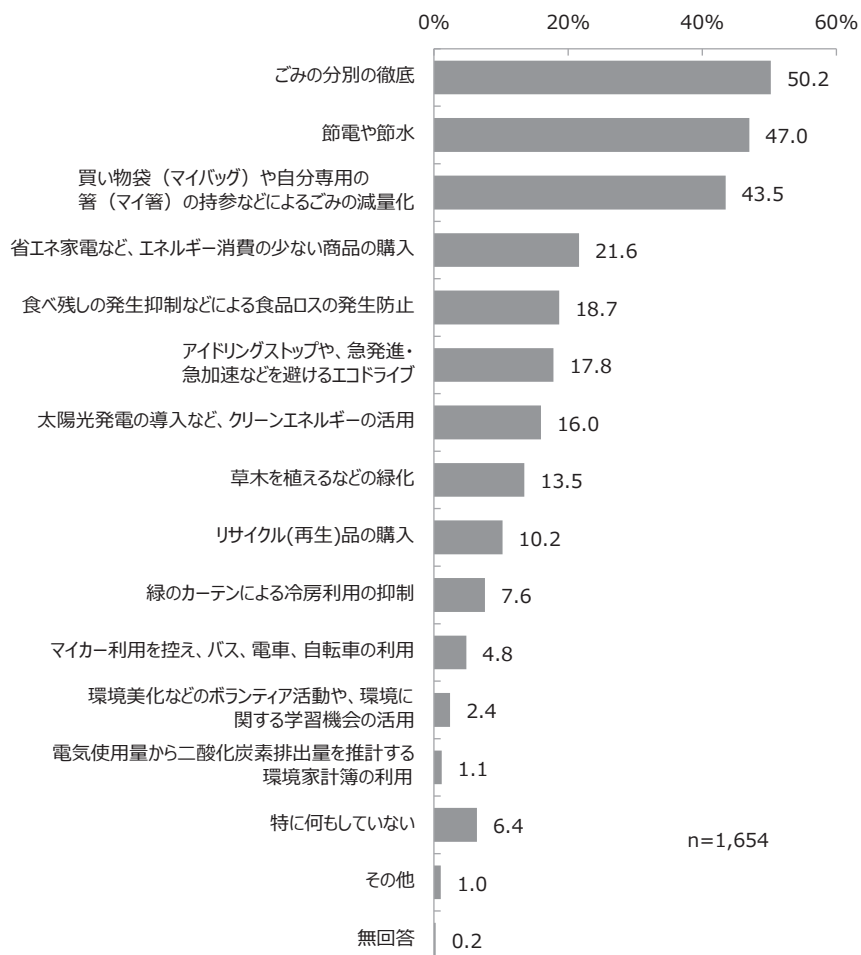
(注) ※選択肢の編成や表現を変更

農業の振興のために行政に求めることについては、「新たに農業に従事する人や企業の農業参入への支援など、多様な担い手の確保・育成」(45.8%)が最も回答率が高く、以下「耕作放棄地の再生・活用の支援」(38.1%)、「県産農産物のブランド力の強化と消費者へのPRなど販売促進活動の推進」(36.7%)、「山梨独自の新たな品種の開発と、その普及・宣伝」(26.8%)と続いている。

今後の本県農業の振興にあたっては、これまでの調査結果と同様に、個人・企業を問わず農業への新規参入者の確保がまずは重要との認識が示されている。また、農産物のブランド力向上や販路開拓、新品种の開発・普及など、農産物の付加価値を高め、農業を魅力的な産業として育てていく取り組みも重視されている。なお、耕作放棄地の再生や活用、農作物への鳥獣害対策など、農業全体を取り巻く大きな課題に対しても継続的に回答率が上昇しており、より重要性が増してきていると考えられる。

(3) 環境の保全（日常生活において心がけていること）

問9 環境を守るため、あなたは日常生活においてどのようなことを心がけていますか。次の中から3つまで選んでください。（〇は3つまで）



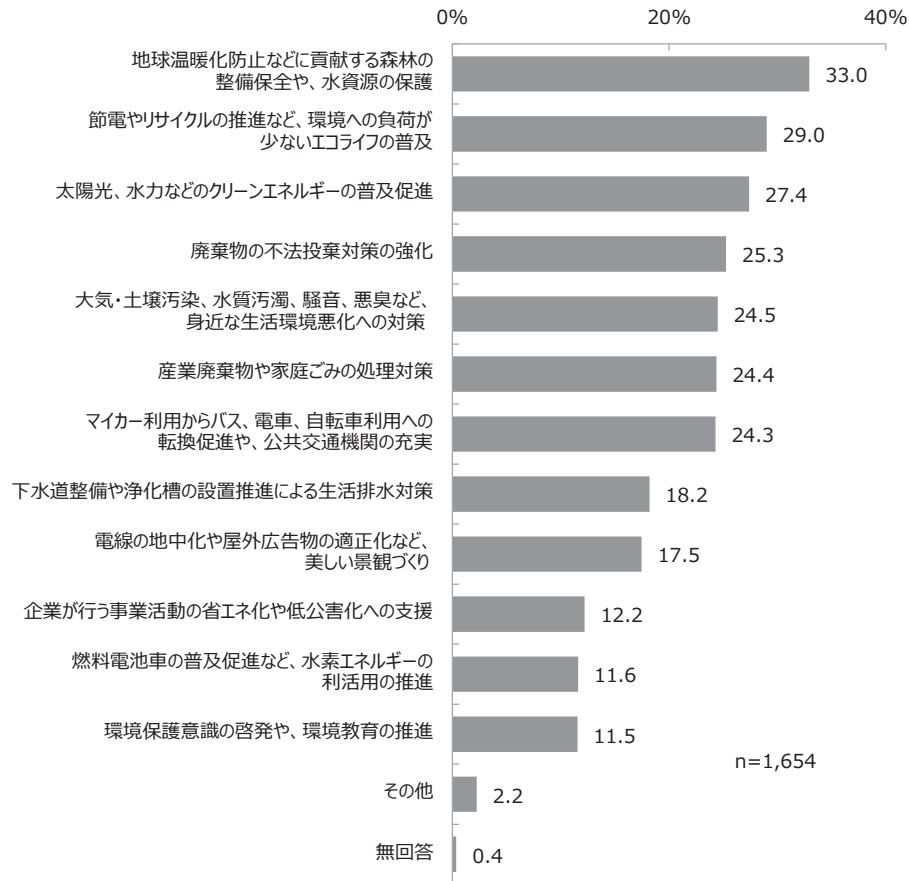
(注) ※選択肢の表現を変更

環境の保全に関する日常の心がけについては、「ごみの分別の徹底」（50.2%）の回答率が最も高く、以下「節電や節水」（47.0%）、「買い物袋（マイバッグ）や自分専用の箸（マイ箸）の持参などによるごみの減量化」（43.5%）、「省エネ家電など、エネルギー消費の少ない商品の購入」（21.6%）、「食べ残しの発生抑制などによる食品ロスの発生防止」（18.7%）と続いている。

東日本大震災を契機として更に強く喚起された省エネやごみ減量に対する関心が定着し、その後の関心事項がごみの分別やエコドライブ、食品ロス防止など、具体的な取り組みに推移していると考えられる。県民満足度における「居住環境領域」の「自然環境」「大気汚染等」「ごみ・生活排水」（8ページ）、「余暇領域」の「自然と親しむ機会」（10ページ）における満足傾向の強さも含め、環境保全に関する県民意識は高いことから、今後も具体的な取り組みを推進することで更なる意識の向上に取り組むことが重要である。

(4) 環境の保全（行政に求めること）

問10 環境を守るため、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。（○は3つまで）



(注) ※選択肢の編成や表現を変更

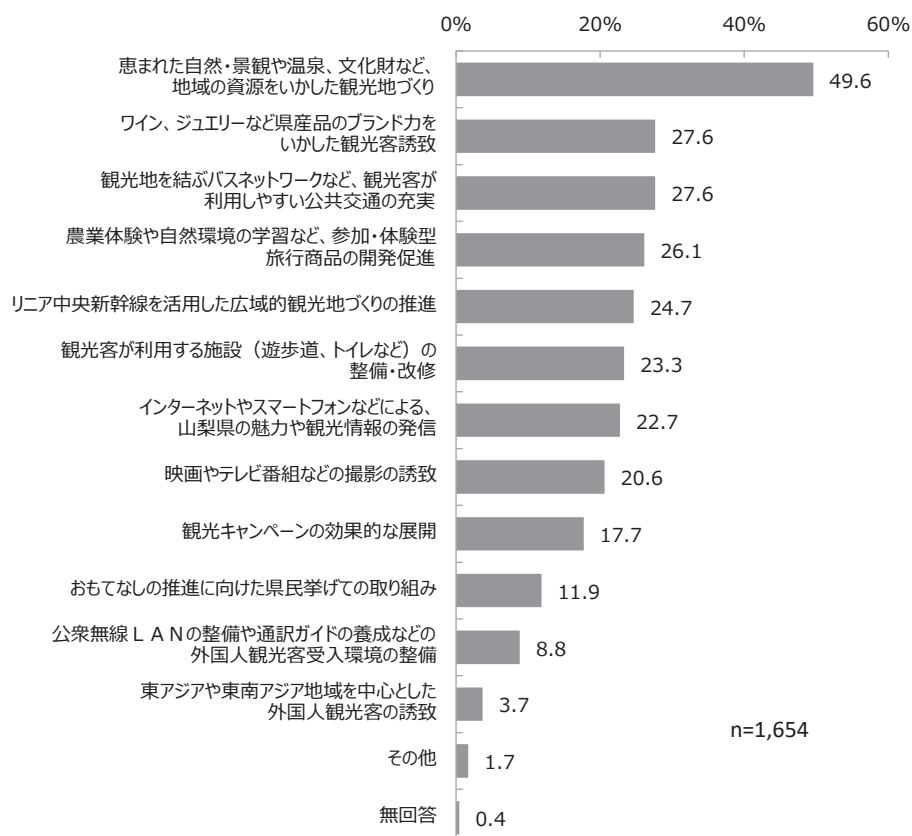
環境の保全に関して行政に求めることについては、「地球温暖化防止などに貢献する森林の整備保全や、水資源の保護」(33.0%)が最も高い回答率となり、以下「節電やリサイクルの推進など、環境への負荷が少ないエコライフの普及」(29.0%)、「太陽光、水力などのクリーンエネルギーの普及促進」(27.4%)、「廃棄物の不法投棄対策の強化」(25.3%)と続いている。

東日本大震災を契機としたエネルギー問題への関心の高まりがある程度落ち着き、一方で太陽光パネルの設置に関する議論などもあり、クリーンエネルギーの普及促進に対する県民の関心が低下していると考えられる。

一方、森林の整備保全や水資源の保護は引き続き高い回答率を維持しており、県民満足度における「居住環境領域」の「自然環境」(8ページ)での強い満足傾向や、「山梨県のよいところ」(15ページ)における「自然環境」への関心が高さなどからも、自然環境の保全・保護に関する取り組みは今後も積極的に推進していく必要がある。

(5) 観光の振興

問 1 1 観光の振興は、経済の活性化のほか、にぎわいや交流を通じて地域の活力向上や心の豊かさにもつながります。山梨の観光を振興していくために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



(注) ※選択肢の編成や表現を変更

※「ワイン、ジュエリーなど県産品のブランド力をいかした観光客誘致」と「観光地を結ぶバスネットワークなど、観光客が利用しやすい公共交通の充実」は回答率が同率であるが、回答数は「ワイン、ジュエリーなど県産品のブランド力をいかした観光客誘致」が上回っている。

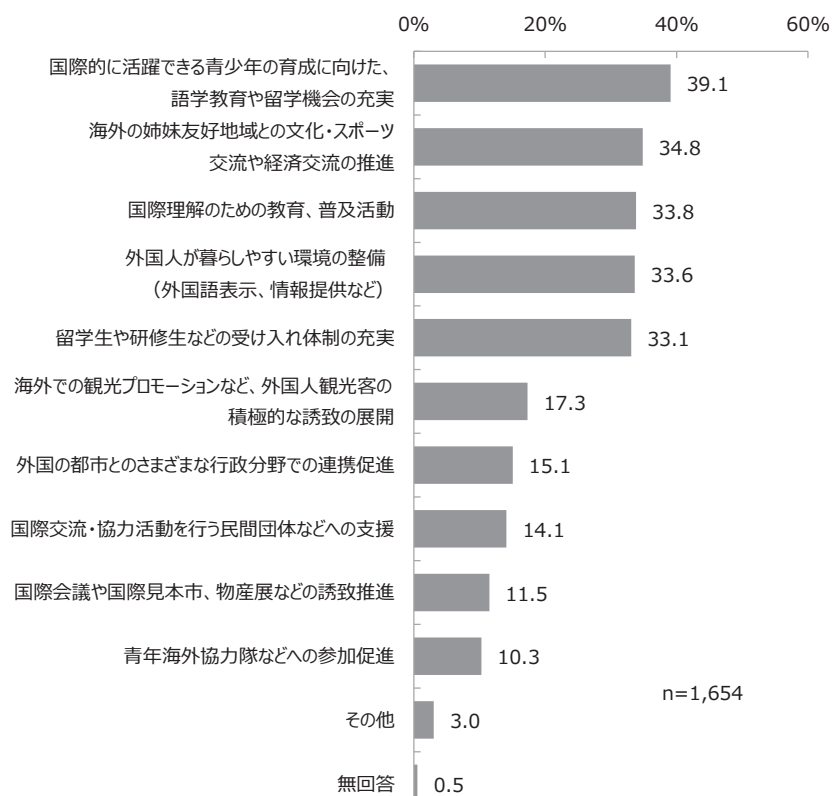
観光の振興のために必要なことについては、「恵まれた自然・景観や温泉、文化財など、地域の資源をいかした観光地づくり」(49.6%)が最も高い回答率を示し、以下「ワイン、ジュエリーなど県産品のブランド力をいかした観光客誘致」及び「観光地を結ぶバスネットワークなど、観光客が利用しやすい公共交通の充実」(ともに27.6%)と続いている。

地域資源をいかした独自性のある観光地づくりの必要性が強く認識されるとともに、こうした資源を利用しながら観光客の満足度を高める公共交通や観光施設などの利便性・快適性の向上、参加・体験型旅行商品による観光メニューの充実などへの関心が高い。

一方で、外国人観光客の誘客や受入環境の整備などに対する関心は比較的低く、訪日外国人観光客の増加に対して重視されるおもてなしの推進も含めて、県民全体に関心を広めていく取り組みが重要である。

(6) 国際交流

問12 国際交流の推進や外国人との相互理解の促進のために、あなたは今後どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



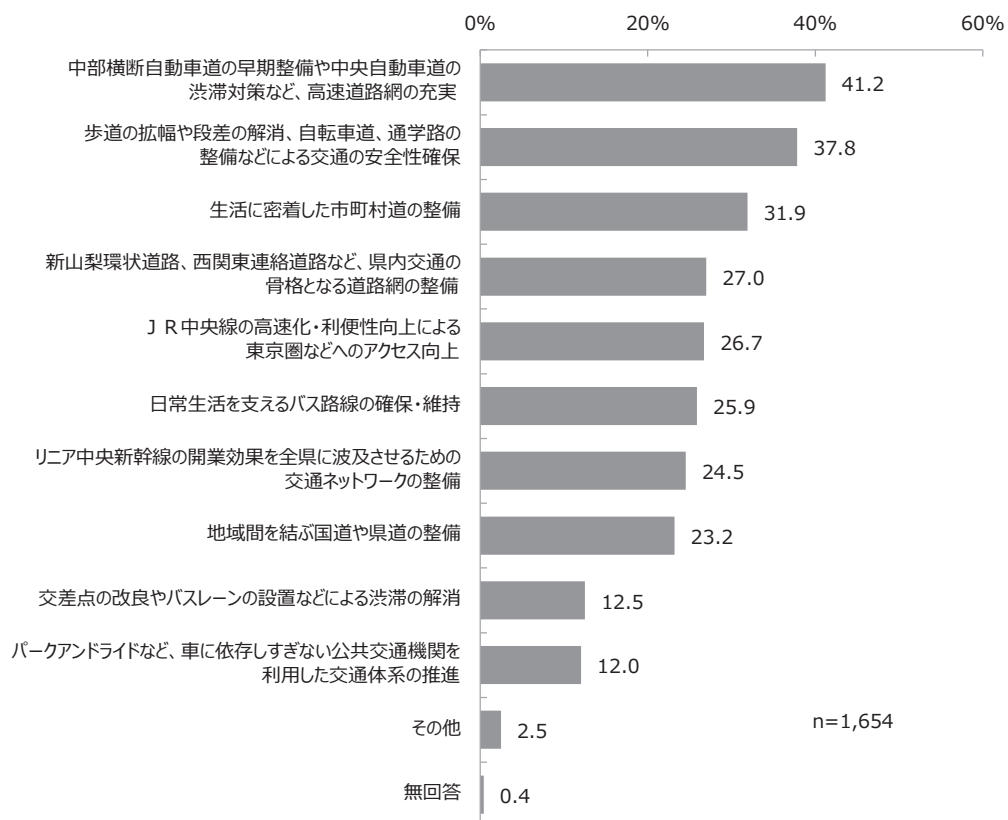
(注) ※選択肢の編成や表現を変更

国際交流の推進や外国人との相互理解のために力を入れるべきこととして、最も回答率が高かったのは、「国際的に活躍できる青少年の育成に向けた、語学教育や留学機会の充実」(39.1%)で、以下「海外の姉妹友好地域との文化・スポーツ交流や経済交流の推進」(34.8%)、「国際理解のための教育、普及活動」(33.8%)、「外国人が暮らしやすい環境の整備(外国語表示、情報提供など)」(33.6%)、「留学生や研修生などの受け入れ体制の充実」(33.1%)と続いている。

地域の国際化に向けては、青少年向け海外研修や国際理解教育、留学生の受入促進などの人材育成という分野での関心が県民に強く認識されている。なお、人材育成に対する認識に年齢層による違いが見受けられ、「20代」以下では海外からの留学生や研修生を受け入れる機会・制度の充実を重視している一方、「30代」以上では、語学教育や国際理解、留学機会の充実など、海外で知識・経験を積むための教育に強い関心が示されている。

(7) 交通政策

問13 地域の経済の活性化や安全で豊かな生活のために、どのような交通施策の充実が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



(注) ※選択肢の編成や表現を変更

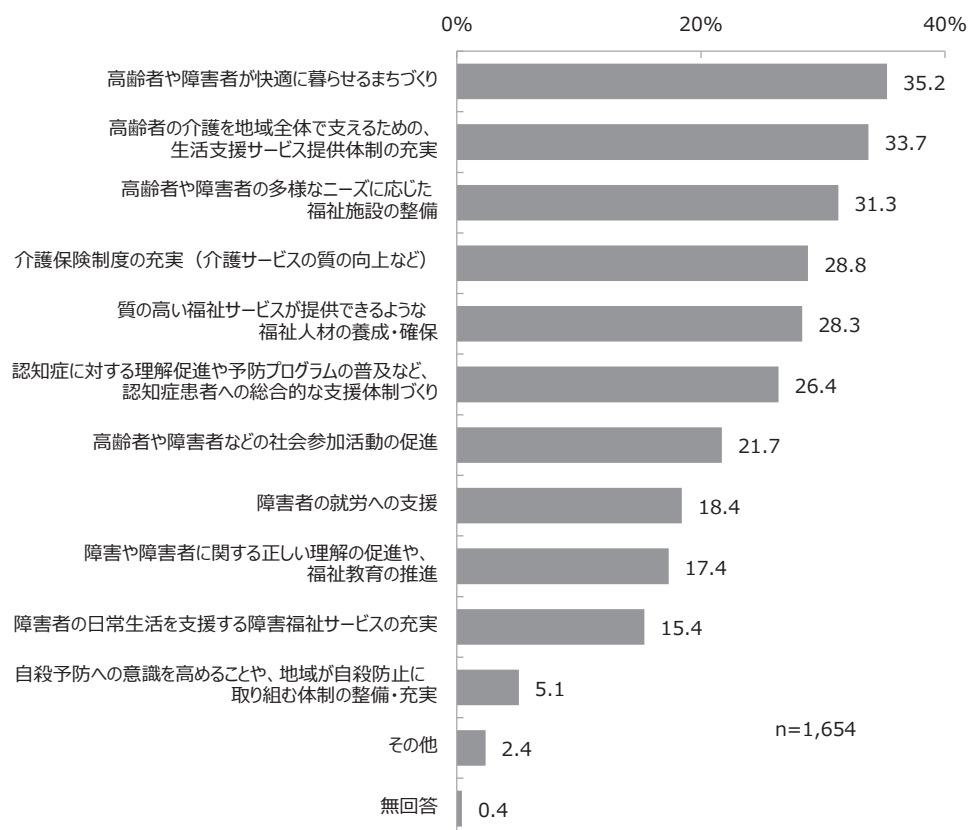
充実が必要と考える交通施策では、「中部横断自動車道の早期整備や中央自動車道の渋滞対策など、高速道路網の充実」(41.2%)が最も回答率が高く、以下「歩道の拡幅や段差の解消、自転車道、通学路の整備などによる交通の安全性確保」(37.8%)、「生活に密着した市町村道の整備」(31.9%)と続いている。

交通施策に関しては、属性による回答傾向の違いが確認でき、生活に身近な道路や交通手段の安全・安心、利便性の向上を重視する層と、県内外を結ぶ広域的な交通体系の整備に重きをおく層に分かれていると考えられる。

県民満足度における「居住環境領域」の「公共交通機関」(8ページ)では、過去3回の調査も含めて一貫して不満傾向となっており、また、問6「行政の施策についての要望」(18ページ)で公共交通関連が1位となっていることから、県民満足度の向上において、この分野の満足度水準の改善はより重要性の高い取り組みと位置付けられる。

(8) 地域福祉

問14 高齢者や障害者をはじめ誰もが安心して暮らせる地域福祉の推進に向けて、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



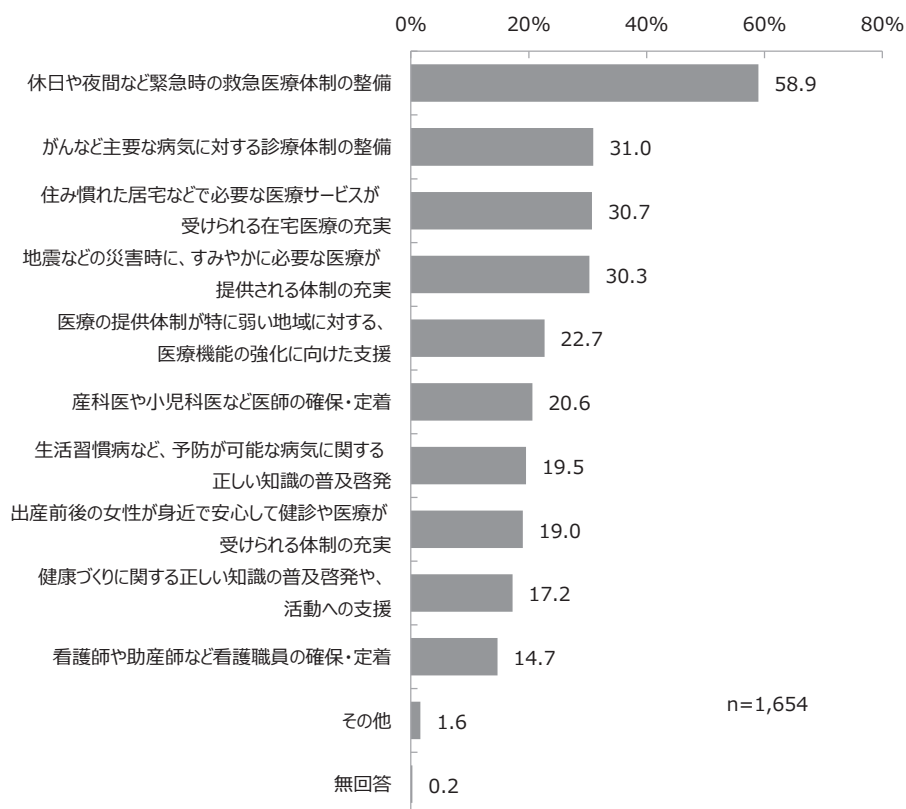
(注) ※選択肢の編成や表現を変更

高齢者や障害者をはじめ誰もが安心して暮らせる地域福祉の推進に関し、行政に求めることについては、「高齢者や障害者が快適に暮らせるまちづくり」(35.2%)が最も回答率が高く、以下「高齢者の介護を地域全体で支えるための、生活支援サービス提供体制の充実」(33.7%)、「高齢者や障害者の多様なニーズに応じた福祉施設の整備」(31.3%)、「介護保険制度の充実(介護サービスの質の向上など)」(28.8%)、「質の高い福祉サービスが提供できるような福祉人材の養成・確保」(28.3%)と続いている。

高齢化による介護負担の増大に伴い、地域全体で高齢者を支える「介護の社会化」への関心が強まっているほか、増え続ける認知症高齢者とその家族に対する支援を充実させていくことも重要課題と認識されている。一方で、ユニバーサルデザインの考え方が浸透しつつあり、誰もが快適に暮らせるまちづくりだけでなく、社会参加活動の促進、就労支援、障害理解の促進への関心も高まっており、地域福祉に対する県民の関心・ニーズが多様化していると考えられる。なお、深刻な社会問題として認識されつつある「自殺対策」については、県民の関心に低下が見られることから、その意識を高める取り組みが必要である。

(9) 保健医療

問15 日ごろからの健康づくりや、病気やけがなどの時に必要な医療を受けられる環境づくりのために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



(注) ※選択肢の編成や表現を変更

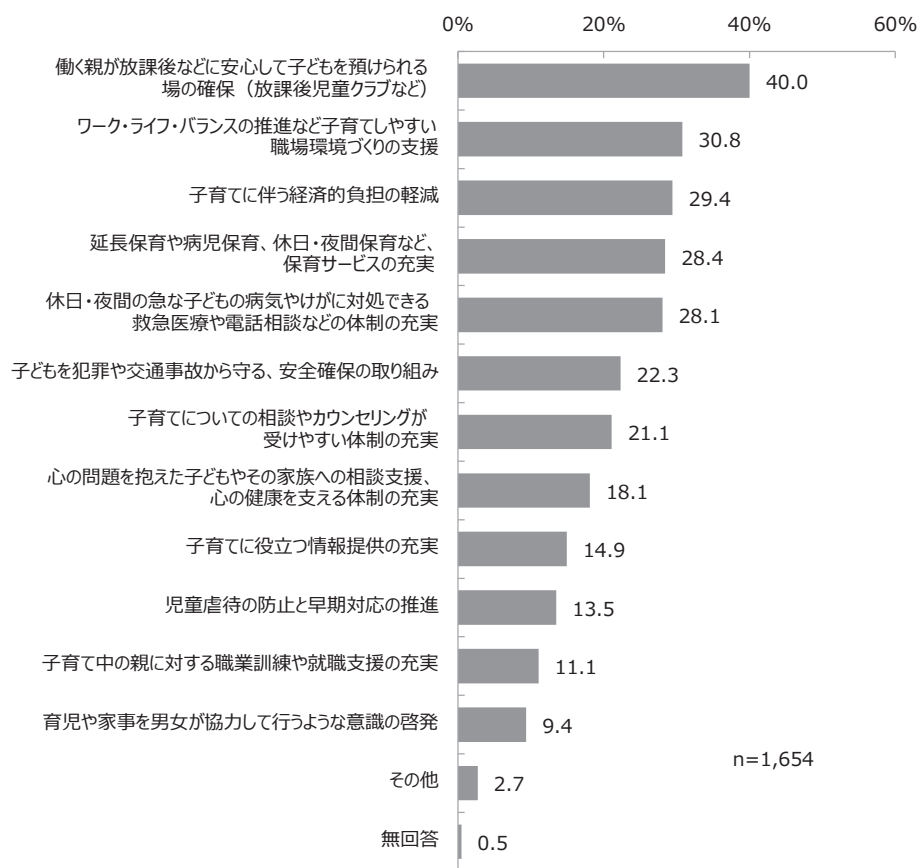
健康づくりや医療体制の整備に関し行政に求めることについては、「休日や夜間など緊急時の救急医療体制の整備」(58.9%)が最も回答率が高く、以下「がんなど主要な病気に対する診療体制の整備」(31.0%)、「住み慣れた居宅などで必要な医療サービスが受けられる在宅医療の充実」(30.7%)、「地震などの災害時に、すみやかに必要な医療が提供される体制の充実」(30.3%)と続いている。

災害時などの救急医療体制やがんなど主要な病気に対する診療体制など、健康的な生活を支える医療体制の整備に対して、強い関心が寄せられていることが明らかとなった。

一方で、出産や子育てに関する項目では回答率の低下が見られており、行政や大学などによる医師確保などの積極的な取り組みの成果が表れてきた可能性が考えられるものの、「女性」や「18～19歳」「30代」といった若年層の回答率が比較的高いことを考慮すると、特定の対象者以外の関心が低下している可能性も考えられることから、いかにして県民全体の関心事として定着させていくかが重要である。

(10) 子育て支援

問16 安心して子育てができる環境づくりのために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



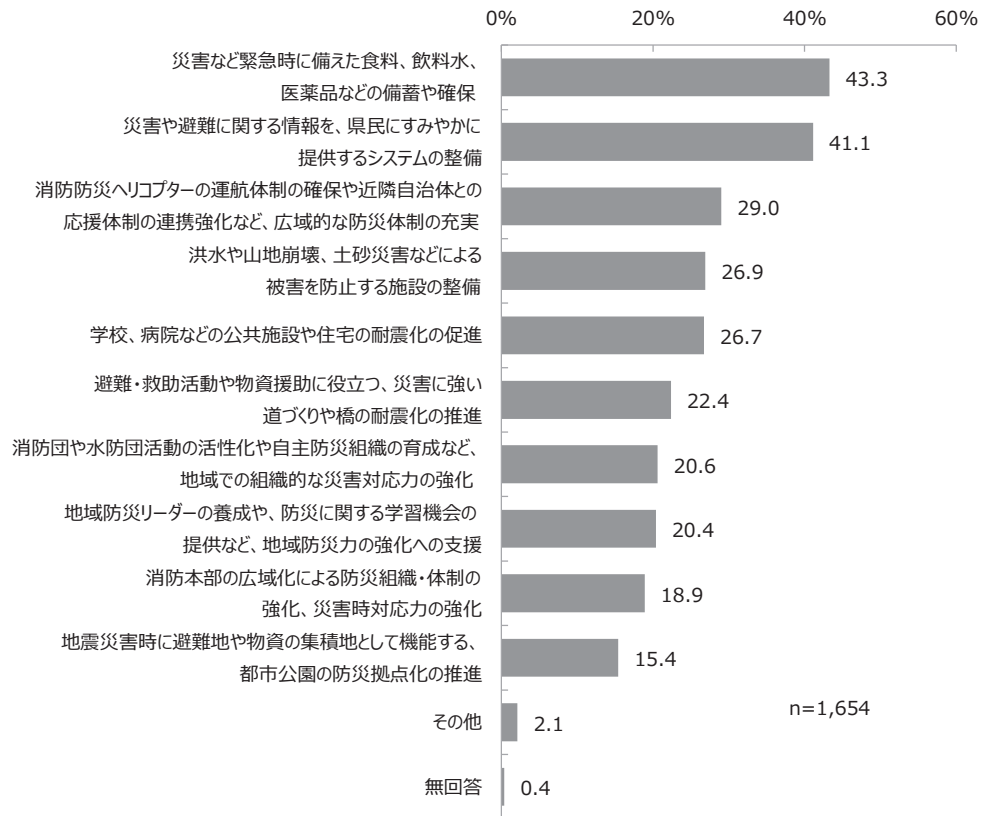
(注) ※選択肢の編成や表現を変更

安心して子育てができる環境づくりのため行政に求めることについては、「働く親が放課後などに安心して子どもを預けられる場の確保 (放課後児童クラブなど)」(40.0%)が最も回答率が高く、以下「ワーク・ライフ・バランスの推進など子育てしやすい職場環境づくりの支援」(30.8%)、「子育てに伴う経済的負担の軽減」(29.4%)、「延長保育や病児保育、休日・夜間保育など、保育サービスの充実」(28.4%)と続いている。

働く親をサポートするための子どもの預かり場所の確保や保育サービスの充実については、すべての県民が高い関心を示している。特に、子育てに直面する層では、これらのほか、小児救急医療体制や経済的支援などと共に、ワーク・ライフ・バランスなどの働き方に対して高い関心が示されており、また、高齢者など子育てを側面的に支援することが期待される層では、子どもを預けられる場の確保に加え、相談支援に対する関心も高く、地域・社会全体で子育てをサポートしようとする意識の高さを示す結果となった。

(11) 防災・災害対策

問17 東日本大震災や記録的な大雪を教訓に、地域の防災力の強化や災害に強い県土づくりを進めていくことが重要な課題となっています。県民の安全を守るために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



(注) ※選択肢の編成や表現を変更

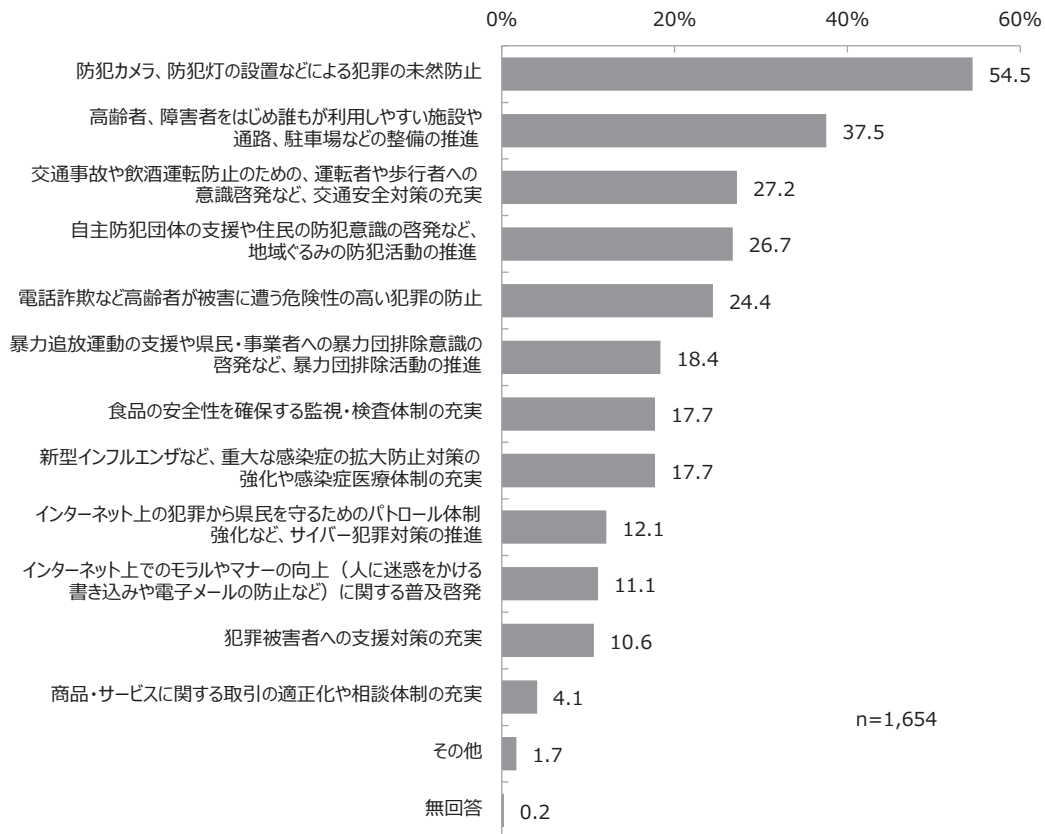
災害から県民の安全を守るため行政に求めることについては、「災害など緊急時に備えた食料、飲料水、医薬品などの備蓄や確保」(43.3%)が最も回答率が高く、以下「災害や避難に関する情報を県民にすみやかに提供するシステムの整備」(41.1%)、「消防防災ヘリコプターの運航体制の確保や近隣自治体との応援体制の連携強化など、広域的な防災体制の充実」(29.0%)、「洪水や山地崩壊、土砂災害などによる被害を防止する施設の整備」(26.9%)と続いている。

日本社会に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から6年以上が経過したものの、震災以降も日本全国で頻発する土砂災害などのニュースに接する機会も多く、現在においても防災施設整備や食料等の生活必需品の備蓄、災害情報の迅速な把握に対して県民が非常に強い関心を寄せ続けていることが確認できる。

その一方で、消防団や地域防災リーダーの養成など、住民主体で防災活動に取り組む意識が低下しているが、災害から県民の安全を守るためには、自助・共助・公助の連携が重要であり、地域を主体とした取り組みをより一層定着させていくことが重要である。

(12) 安全・快適な社会づくり

問18 快適で安全に暮らせる社会づくりのために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



(注) ※選択肢の編成や表現を変更

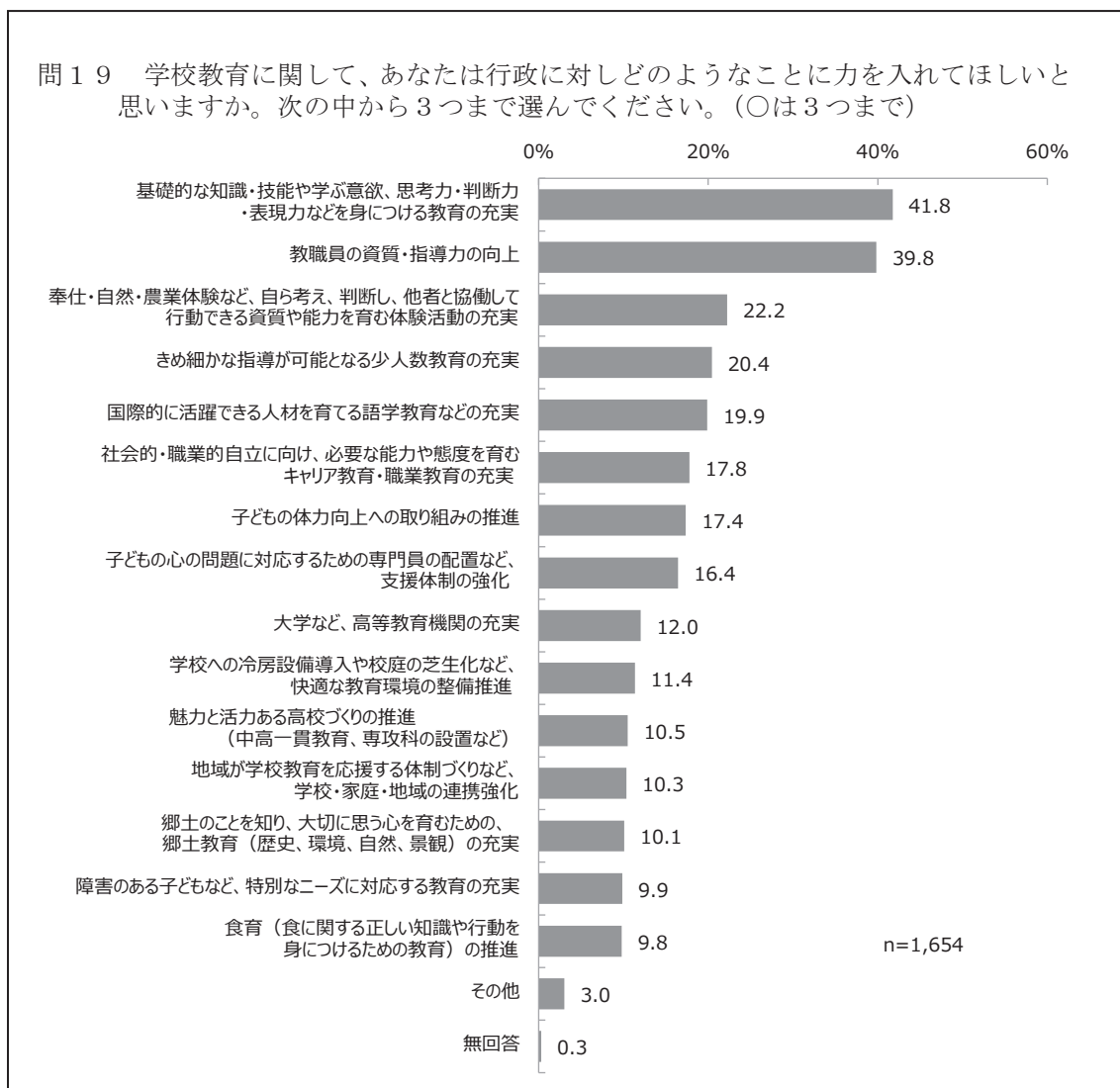
※「食品の安全性を確保する監視・検査体制の充実」と「新型インフルエンザなど、重大な感染症の拡大防止対策の強化や感染症医療体制の充実」は回答率が同率で回答数も同数となった。

安全・快適な社会づくりのため行政に求めることについて、最も回答率が高かったのは、「防犯カメラ、防犯灯の設置などによる犯罪の未然防止」(54.5%)であり、以下「高齢者、障害者をはじめ誰もが利用しやすい施設や通路、駐車場などの整備の推進」(37.5%)、「交通事故や飲酒運転防止のための、運転者や歩行者への意識啓発など、交通安全対策の充実」(27.2%)、「自主防犯団体の支援や住民の防犯意識の啓発など、地域ぐるみの防犯活動の推進」(26.7%)と続いている。

安全・快適な社会づくりには、犯罪や交通事故、感染症や食品などの安全に加え、インターネットを介した誹謗・中傷やいじめ、犯罪的行為などのさまざまな課題が存在しているため、本問も多様な選択肢を含むこととなったが、今回から追加された電話詐欺等の犯罪防止も含め、犯罪行為や交通事故の防止を重視する傾向が明らかとなった。

なお、インターネットに関するモラルの低下やサイバー犯罪への対応については、前回同様、関心の低い状況が続いており、今後の社会環境の変化に対応するために、関心を高めていく取り組みが重要である。

(13) 学校教育



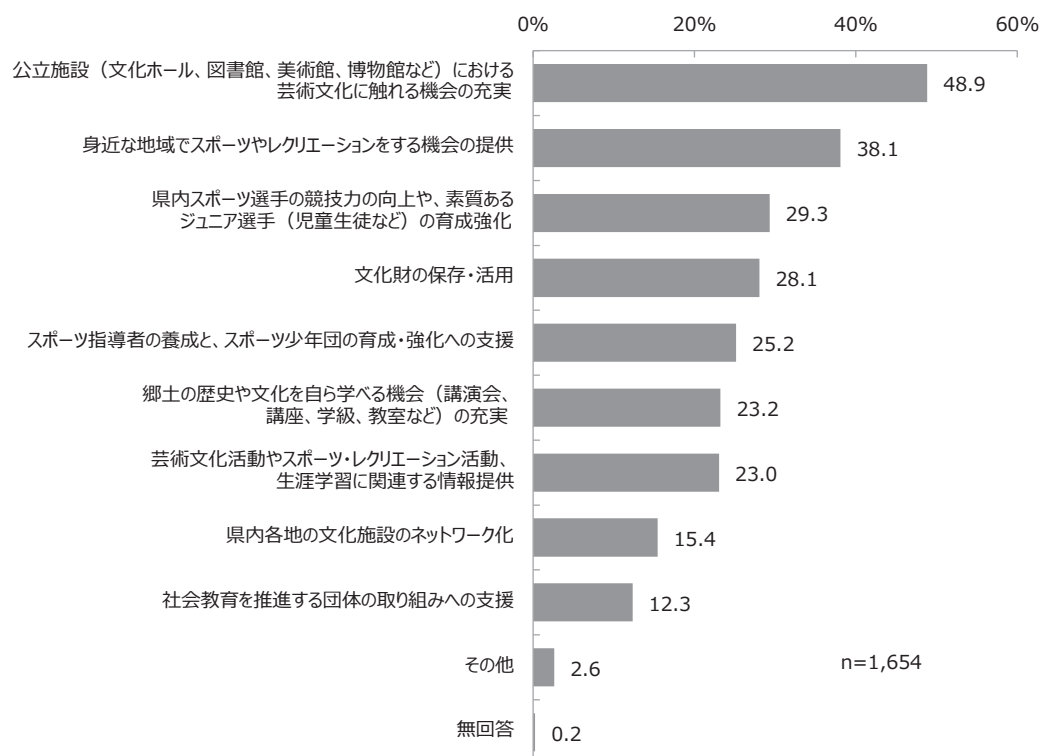
(注) ※選択肢の編成や表現を変更

学校教育に関し行政に求めることについて最も回答率が高かったのは、「基礎的な知識・技能や学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力などを身につける教育の充実」(41.8%)であり、以下「教職員の資質・指導力の向上」(39.8%)、「奉仕・自然・農業体験など、自ら考え、判断し、他者と協働して行動できる資質や能力を育む体験活動の充実」(22.2%)、「きめ細かな指導が可能となる少人数教育の充実」(20.4%)と続いている。

全体的に、基礎的な知識に加えて、学習意欲や思考力・判断力・表現力など、基本的な学力を身につけさせる教育内容の充実を望む意見は多く、また教育の質の向上のための、教育現場において指導的立場にある教職員の能力・意欲の向上や教育環境の充実に対する関心も高いことが明らかとなった。なお、「教育・文化領域」における県民満足度(9ページ)では、「幼稚園・保育所」「小中高の教育」では満足傾向であるが、「高等教育の機会」「家庭教育」では不満傾向となるなど、当事者や保護者がおかれた教育環境によって差が表れていることから、その対象者に合わせた、きめ細やかな取り組みが重要である。

(14) 文化・スポーツ・生涯学習

問20 芸術文化活動やスポーツ・レクリエーション活動、生涯学習について、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



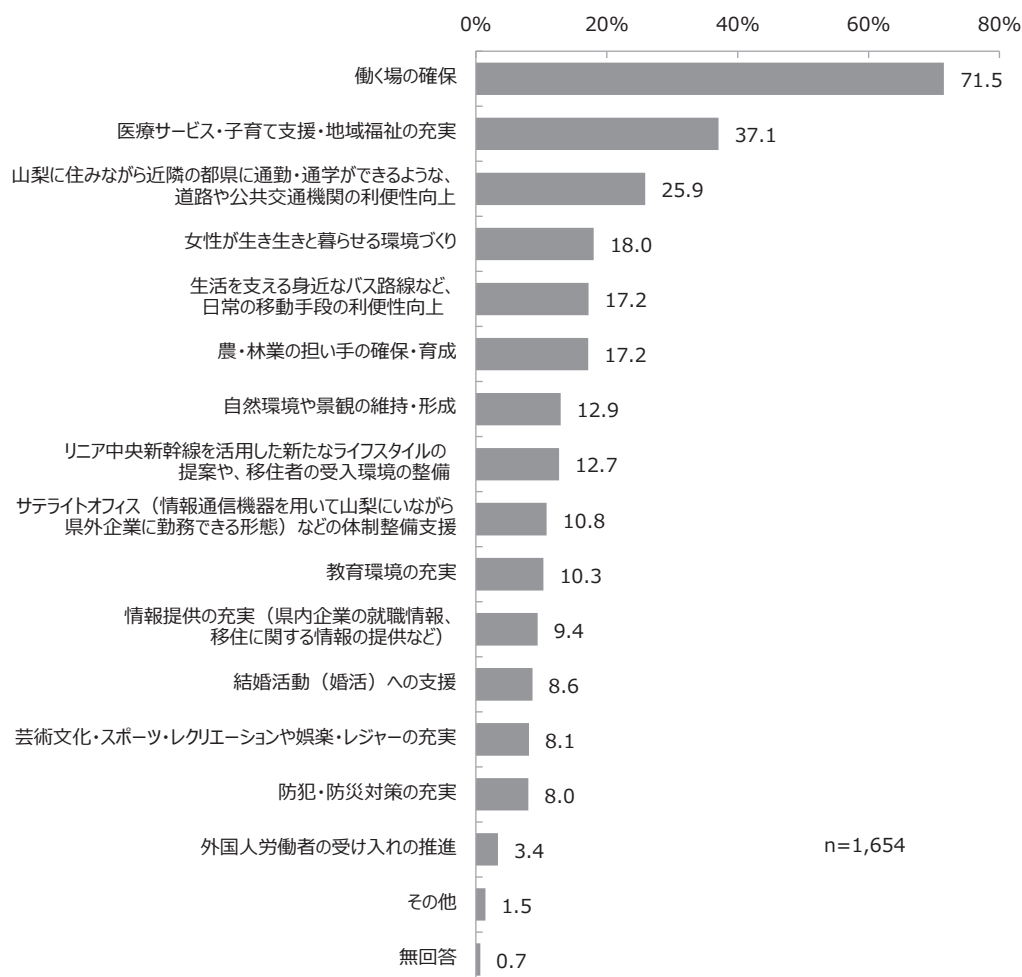
(注) ※選択肢の編成や表現を変更

芸術文化活動やスポーツ・レクリエーション活動、生涯学習に関し行政に求めることについては、「公立施設（文化ホール、図書館、美術館、博物館など）における芸術文化に触れる機会の充実」（48.9%）が最も回答率が高く、以下「身近な地域でスポーツやレクリエーションをする機会の提供」（38.1%）、「県内スポーツ選手の競技力の向上や、素質あるジュニア選手（児童生徒など）の育成強化」（29.3%）、「文化財の保存・活用」（28.1%）と続いている。

「公立施設（文化ホール、図書館、美術館、博物館など）における芸術文化に触れる機会の充実」及び「身近な地域でスポーツやレクリエーションをする機会の提供」の回答率が高いことから、イベントや講習会への参加機会の充実に対する希望が多いと考えられる。ただし、スポーツ振興に重点を置く層、郷土史や郷土の文化に関する生涯学習の機会を求める層など、属性による特徴も確認できることから、その関心層に適した施策を展開することが効果的・効率的と考えられる。

(15) 移住・定住の促進

問2 1 地域社会の活力維持のためには、人口の減少傾向に歯止めをかけ、山梨に住む人々の増加・定着を図る必要があります。定住促進のために、あなたは今後どのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



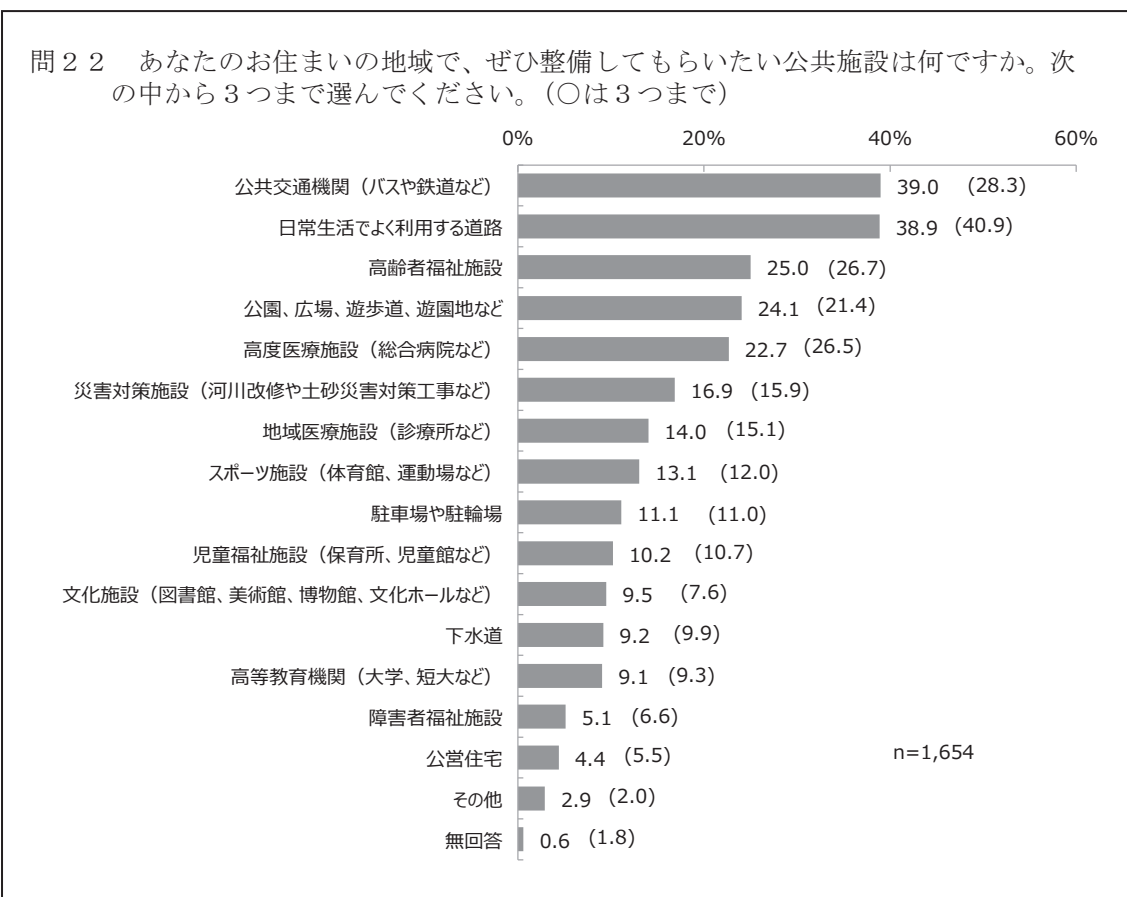
(注) ※選択肢の編成や表現を変更

※「生活を支える身近なバス路線など、日常の移動手段の利便性向上」と「農・林業の担い手の確保・育成」は回答率が同率であるが、回答数は「生活を支える身近なバス路線など、日常の移動手段の利便性向上」が上回っている。

移住・定住の促進のため今後力を入れてほしいことについては、「働く場の確保」(71.5%)が最も高い回答率を示し、以下「医療サービス・子育て支援・地域福祉の充実」(37.1%)、「山梨に住みながら近隣の都県に通勤・通学ができるような、道路や公共交通機関の利便性向上」(25.9%)、「女性が生き生きと暮らせる環境づくり」(18.0%)と続いている。

「働く場の確保」はほぼすべての属性から非常に強い関心が寄せられており、就労機会の確保に関する施策が移住・定住の促進において最も重要であると県民が認識しており、その上で、地域福祉や公共交通網整備などの生活基盤の強化への関心が続いている点は前回同様となった。

4 公共施設整備についての要望

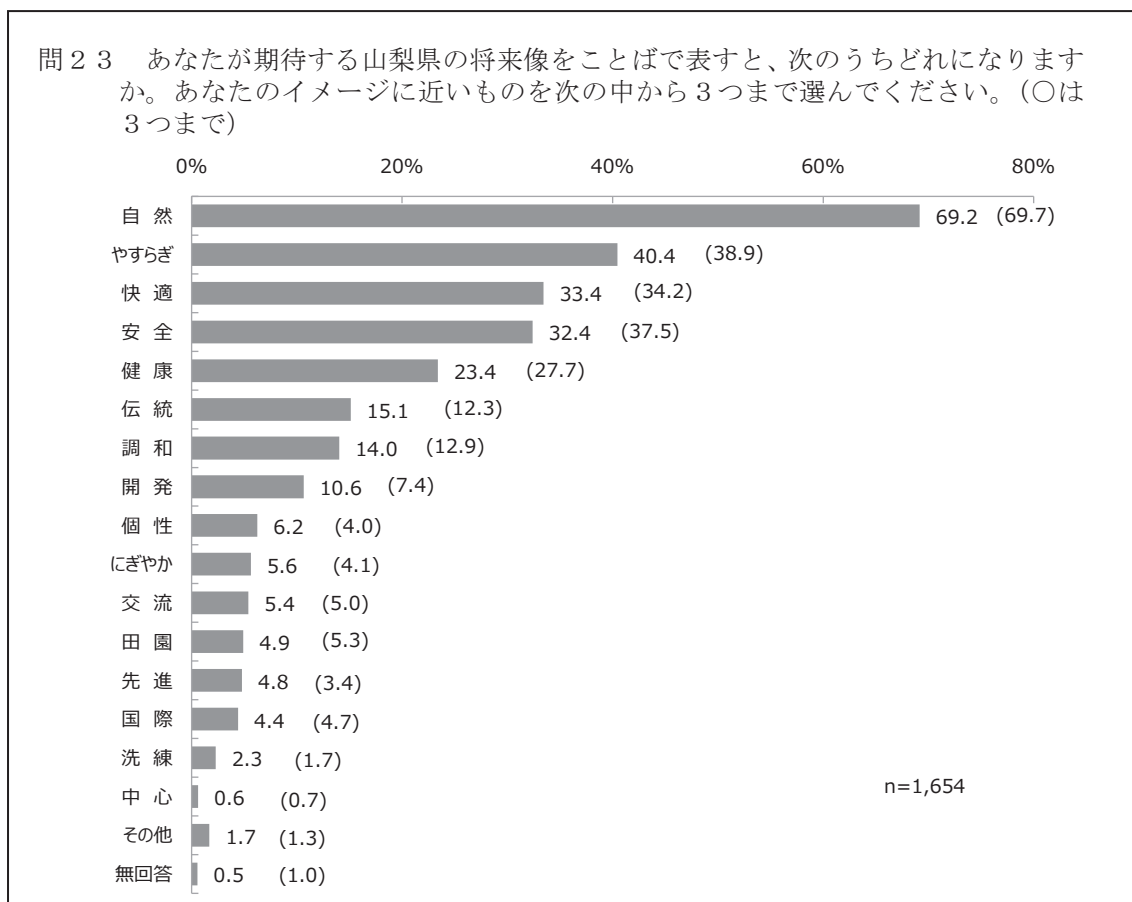


(注) ※図表 () 内は前回 (平成 24 年度) 調査時の数値

居住地域において整備を希望する公共施設として、最も回答率が高かったのは「公共交通機関 (バスや鉄道など)」(39.0%) となっており、以下「日常生活でよく利用する道路」(38.9%)、「高齢者福祉施設」(25.0%)、「公園、広場、遊歩道、遊園地など」(24.1%)、「高度医療施設 (総合病院など)」(22.7%)、「災害対策施設 (河川改修や土砂災害対策工事など)」(16.9%) と続いている。

地域生活に身近な公共施設として、道路や公共交通網の整備に対するニーズが依然として高いことが確認できる。特に「公共交通機関 (バスや鉄道など)」は、県民満足度における「居住環境領域」の「公共交通機関」(8 ページ) が過去調査を含めて一貫して不満傾向となったことから、県民が強い要望を抱いていることが改めて確認できる結果となった。

5 期待する山梨県の将来像



(注) ※図表 () 内は前回 (平成 24 年度) 調査時の数値

山梨県に期待する将来像のイメージとしては、「自然」(69.2%)が突出しており、2番目の「やすらぎ」(40.4%)を大きく引き離している。以下「快適」(33.4%)、「安全」(32.4%)、「健康」(23.4%)と続いている。

1位の「自然」は過去2回の調査を含めて一貫して7割程度の県民から選択されている。問3「山梨県のよいところ」(15ページ)において自然環境に恵まれている点が圧倒的多数で選ばれたことから、本県の強みとして認知されたうえで、代表的な地域資源として将来にわたり維持・保全していくべき、との意向が強く表れていると考えられる。

なお、「その他」を除く本問の16項目のうち、回答率が2桁に達したのは半分の8項目のみであり、かつ上位項目への回答の集中が見られることから、本県のあるべき将来像について、豊かな「自然」がもたらす「やすらぎ」や「快適さ」、それに伴う「安全」や「健康」などといった、県民の間に強い共通性を有するイメージが定着しており、大都市圏に近接しながらも、都会とは一線を画した地域の理想像に対する期待が表れている。

とはいえ、「開発」「にぎやか」「交流」「先進」といった項目でも回答率の上昇が見られ、地域活力の維持・向上に対する期待の大きさにも留意することが必要である。